所功　著作目録（稿）

令和二年（二〇二〇）五月一日初稿・十五日補訂（後藤真生）

イ　既刊書籍（内容仮分類）一覧

(1)皇位継承の歴史と法制

［1］『皇位継承』（共著前半）〈文春新書、H10〉
［2］『皇位継承のあり方』〈PHP新書、H18〉
［3］『皇室典範と女性宮家』〈勉誠出版、H24〉
［4］『近現代の「女性天皇」論』〈展転社、H13〉
［5］『象徴天皇「高齢譲位」の真相』〈ベスト新書、H29〉

(2)天皇の歴史と皇室文化

［6］『歴代天皇の実像』〈モラロジー研究所、H21〉
［7］『天皇の人生儀礼』〈小学館文庫、H13〉
［8］『天皇の「まつりごと」』〈NHK新書、H21〉
［9］『皇室の伝統と日本文化』〈モラロジー研究所、H8〉
［10］『皇室に学ぶ徳育』〈モラロジー研究所、H24〉

(3)近世近代天皇関係資料

［11］『光格天皇関係絵図集成』〈国書刊行会、R2〉
［12］『「五箇条の御誓文」関係資料集成』〈原書房、H30〉
［13］『近代大礼関係の基本史料集成』〈国書刊行会、H30〉
［14］『大正大礼記録　絵図・写真資料集』〈勉誠出版、R元〉

(4)昭和天皇の教科書と御製

［15］『昭和天皇の学ばれた教育勅語』〈勉誠出版、H21〉
［16］『昭和天皇の学ばれた「倫理」』〈勉誠出版、H28〉
［17］『昭和天皇の教科書「国史」』〈勉誠出版、H27〉
［18］『昭和天皇の教科書「法制・帝國憲法」』〈原書房、H9〉
［19］『昭和天皇の大御歌』〈角川書店、H31〉

(5)日本の祝祭日と国旗・国歌

［20］『日本の祝祭日』→『「国民の祝日」の由来がわかる小事典』〈PHP新書、S61→H15〉
［21］『国旗・国歌の常識』〈東京堂出版、H5〉
［22］『国旗・国歌と日本の教育』〈モラロジー研究所、H12〉

(6)日本の年号史と元号制度

［23］『日本の年号』〈雄山閣出版、S52〉
［24］『年号の歴史―元号制度の史的研究―』〈雄山閣出版、S63／増補版、H元〉
［25］『元号』（共著の分担部分）〈文春新書、H30〉
［26］『元号読本』（共著の分担部分）〈創元社、R元〉

(7)平安以来の宮廷儀式と御記逸文

［27］『平安朝儀式書成立史の研究』〈国書刊行会、S60〉
［28］『宮廷儀式書成立史の再検討』〈国書刊行会、H13〉

［29］『三代御記逸文集成』〈国書刊行会、Ｓ57〉
［30］『西宮記』の解題〈神道大系編纂会、Ｈ５〉
［31］『北山抄』の解題〈神道大系編纂会、Ｈ４〉

(8) 歴史的人物の伝記と史資料

［32］『和気清麻呂公の絵像集成』〈護王神社奉賛会、Ｈ５〉
［33］『菅原道真の実像』〈臨川書店、Ｈ14〉
［34］『三善清行』〈吉川弘文館人物叢書、Ｓ45〉
［35］『三善清行の遺文集成』〈方丈堂出版、Ｈ30〉
［36］『松陰から妹達への遺訓』〈勉誠出版、Ｈ27〉
［37］『和田英松博士の学恩』（略伝部分）〈国書逸文研究会、Ｓ62〉

(9) 神宮と神社の歴史と祭礼

［38］『伊勢の神宮』〈新人物往来社、Ｓ48→講談社学術文庫、Ｈ５〉
［39］『伊勢神宮と日本文化』〈勉誠出版、Ｈ25〉
［40］『京都の三大祭』〈角川選書、Ｈ８→角川ソフィア文庫、Ｈ27〉
［41］『靖国の祈り遥かに』〈神社新報社、Ｈ16〉

(10) 知命・還暦・古稀・喜寿の随想

［42］『歴史に学ぶ』〈新人物往来社、Ｈ３〉→『日本歴史再考』〈講談社学術文庫、Ｈ10〉
［43］『あの道この径一〇〇話』〈モラロジー研究所、Ｈ16〉
［44］『古希随想―歴史と共に七十年―』〈歴研、Ｈ24〉
［45］『日本学ひろば88話』〈コミニケ出版、Ｒ２〉

(11) 複製・校注・編著（校注の29・30・31は(7)へ）

［46］京都御所東山御文庫本『撰集秘記』の解題〈国書刊行会、Ｓ55〉
［47］京都御所東山御文庫本『建武年中行事』の解題〈国書刊行会、Ｈ２〉
［48］『新訂　建武年中行事註解』〈講談社学術文庫、Ｈ元〉
［49］『新訂　官職要解』の解題〈講談社学術文庫、Ｓ58〉
［50］『新訂増補国書逸文』の解題〈研究会編、国書刊行会、Ｈ７〉
［51］『皇室事典』→『皇室事典　令和版』執筆部分〈角川書店、Ｈ21→Ｒ元〉
［52］『日本年号史大事典』執筆部分〈雄山閣、Ｈ26〉

※他に私家版は未刊の⑦、監修などの執筆部分は未刊の⑨に収録

ロ　未刊論考（デジタル集成分類仮題）

①『古代国家成立史論考』
②『平安政治文化史論考』
③『皇室・歴代法制史論考』
④『朝儀・祝祭・年号論考』
⑤『神道文化思想史論考』
⑥『日本教育文化史論考』
⑦『先賢・縁者・郷土史論』
⑧『講演・座談・討論記録』
⑨『解題・書評・事典抄録』
⑩『既刊書総目次序跋文』

Ａ　論考総合目録（年月順）

◎は既刊書＝［　］に所収　○は未刊論考の①〜⑨に分類し集成。
『誌紙』の巻号／発行の年月、数字のみで表示する。
発行年の元号略称…昭和＝S、平成＝H、令和＝R

昭和36年（1961）20歳（同年12月12日の満年齢　以下同）
⑥「国語問題」を考える（矢橋謝恩会『楠の生いたち』6／S36—10）

昭和37年（1962）21歳
⑨『近世日本国民史』の人と心（『楠の生いたち』7／S37—10）

昭和38年（1963）22歳
⑥教育正常化への努力（『楠の生いたち』8／S38—10）

昭和39年（1964）23歳
⑥教師への道（千代田化工建設懸賞論文「私の大望」／S39—10）

昭和40年（1965）24歳
⑨紹介　丸田淳著『学問と人生』（『日本』15—4／S40—4）
⑥「歴史ブーム」雑感（『楠の生いたち』10／S40—10）
⑥日本史教科書の問題点（日本学協会『日本』15—12／S40—12）

昭和41年（1966）25歳
⑨紹介　小林健三・西内雅著『日本歴史の精神』（『日本』16—8／S41—8）
⓶三善清行の前半生（藝林会『藝林』17—5—6／S41—12）→［34］
④「建国記念の日」審議会公聴会を傍聴して（『日本』16—12／S41—12）

昭和42年（1967）26歳
⓶“寛平の治”の再検討（『皇學館大学紀要』5／S42—1）→［33］
⑧鼎談　平和を支える柱（『論争ジャーナル』創刊号／S42—1）
④紀元節復活の経過と問題点（『日本』17—4／S42—4）
⓶三善清行の後半生（『藝林』18—3／S42—6）→［34］
⓹護国の祈り（『日本』17—10／S42—10）→［41］

昭和43年（1968）27歳
②平安時代後期における延喜時代観（『古代学』14—2／S43—1）
⑦母ありてこそ（『ぎふの教育』2／S43—1）
⓶『寛平御遺誡』の復原試案（『史学文学』5—3／S43—2）→［27］
②“延喜の治”の再検討（『皇學館大学紀要』6／S43—2）
②意見封進制度の成立（『皇學館論叢』1—2／S43—4）

⑧明治維新観の再検討（『日本』18—7／S43—7）
⓶三善清行の家族（『古代文化』20—11／S43—12）→［34］

昭和44年（1969）28歳
⓼『啓発録に学ぶ』（伊勢市青年会議所／S44—1）→［42］
⓶三善清行の辛酉革命論（『神道史研究』17—1／S44—1）→［42］
②『恒貞親王伝』撰者考（『皇學館論叢』2—1／S44—2）
⑧明治維新の理念（『日本』19—2／S44—3）
②三善清行の革命思想（『神道史研究』17—2／S44—3）
②律令時代における意見封進制度の実態（『延喜天暦時代の研究』（吉川弘文館）／S44—4）
②菅原道真と紀長谷雄の関係（『古事類苑月報』25号／S44—4）
⓶三善清行の遺蹟（『古代文化』21—5／S44—5）→［34］
②『円珍和尚伝』の素材と構成（『仏教史学』14—3／S44—5）
⓹名も無き兵の心（『日本』19—9／S44—9）→［41］
⓶菅原道真の冤罪管見（『藝林』20—5／S44—10）→［33］
②“延喜の治”の推進力（高原美忠先生喜寿記念会編『皇學論集』皇學館大學出版部／S44—10）
⑨小川三雄『天皇の踏絵』（『日本』19—11／S44—11）

昭和45年（1970）29歳
②国衙“官長”の概念と実態（『日本歴史』264／S45—5）
③「皇室典範」の問題点（『日本』20—5／S45—5）
②『藤原保則伝』の基礎的考察（『藝林』21—3／S45—6）
②弘仁格式の成立（『歴史教育』18—8／S45—7）
②『延喜格』の編纂と三善清行（『古代文化』22—9／S45—9）
①神宮文庫蔵『漢委奴国王金印考』（『皇學館論叢』3—5／S45—10）
Ⓚ［34］**『三善清行』**（吉川弘文館人物叢書／S45—10）（→新装版／H元—9）

昭和46年（1971）30歳
③日本よ汝は立憲君主国（『すみのえ』85／S46—1）
②結階法の解説書と計算式（『史学雑誌』80—2／S46—2）
②続類従未収本『三善氏系図』考（『塙保己一記念論文集』（温故学会）／S46—3）
⑨遠日出典著『室生寺及び長谷寺の研究』（『古代文化』23—7／S46—7）
①上田秋成と藤貞幹の金印考（『皇學館論叢』4—4／S46—8）
⑧日本歴史の核心（『日本』21—9／S46—9）
②三善清行伝の補訂（『藝林』22—5／S46—10）
⑥新スパルタ教育論—子供は親にとって何なのか—（『ぎふの教育』23／S46—11）

昭和47年（1972）31歳
⓶『西宮記』（恒例行事）引用史料の初歩的考察（『皇学館大学紀要』10／S47—1）→［27］
⑨竹内理三博士還暦記念会編『律令国家と貴族社会』（『法制史研究』21／S47—3）

①現代における神功皇后観（論文集『神功皇后』（皇學館大学出版部）／S47—5）
⑥近世尾三の文庫と出版（『愛知県教育史』第2巻　愛知県教育委員会／S47—9）
⓶『政事要略』所引「西宮記」と現行文の対比（『皇学館大学紀要』11／S47—10）→［27］
⓹忠魂は朽ちず（『日本』22—10・11／S47—10・11）→［41］
⑤上代における式年遷宮（『神道史研究』20—5・6／S47—11）
⓹**『飯盆の遺書』**（皇學館大学講演叢書／S47—12）→［41］

昭和48年（1973）32歳

⓶『西宮記』の逸文と現行文の成立年代（『法制史研究』22／S48—3）→［27］
⑨林紀昭「大化薄葬令の再検討」「飛鳥浄御原律令に関する諸問題」（『法制史研究』23／S48—3）
②公事書所引“律令”索引（『律令研究資料』4／S48—3）
⑥「古代の尾三教育」「中世の尾三教育」（『愛知県教育史』Ⅰ（愛知県教育委員会）／S48—3）
②道真と時平・延喜の治の実態（日本の歴史4『平安貴族』（研秀出版）／S48—6）
②伝教大師号の成立事情（天台学会編『伝教大師研究』（早稲田大学出版部）／S48—6）
⑤外人の見た近世の伊勢参宮（『日本』23—8／S48—8）
Ⓚ［38］**『伊勢の神宮』**（新人物往来社／S48—12）（→新版／H5—4）

昭和49年（1974）33歳

⑨武藤貞一著『わが日本わが天皇制』（『日本』24—3／S49—3）
⑨市村真一編『東南アジアを考える』（『日本』24—4／S49—4）
④元号法制化への歩み（『日本』第24—7号／S49—7）
⑥宮中勤労奉仕メモ（『すみのえ』127／S49—7）
④年号（一世一元）の意義（『神社新報』／S49—8—5）
⓹飯盆の遺書—ソロモンに父を尋ねて—（『ぎふの教育』28／S49—9）→［41］
⓶『西宮記』成立年代の限定（『皇學館論叢』7—6／S49—12）→［27］

昭和50年（1975）34歳

④日本の年号と天皇（『歴史読本』20—1／S50—1）
②平安時代の菅家と江家（『皇學館大学紀要』13／S50—1）
⑥菅江両家の教育活動（結城陸郎編『日本教育文化史』明玄書房／S50—2）
④一世一元の法理と実態（『日本』25—2／S50—2）
⓶菅原道真の配流（『菅原道真と太宰府天満宮』上（吉川弘文館／S50—3）→［33］
⑧**『日本の年号』**（皇學館大學講演叢書34／S50—3）
⑤『皇學館在職中の思い出』（私家版／S50—3）
⓶元旦四方拝の成立（『名古屋大学日本史論集』上　吉川弘文館／S50—7）→［27］
②「帝王編年記」（『歴史読本』20—9〈歴史の名著一〇〇〉／S50—7）

昭和51年（1976）35歳

③天皇は君主か否か（『神社新報』／S51—1—5）
④年号尊重の論拠（『日本』26—3／S51—3）

②『撰集秘記』現存写本略解（『藝林』27―1／S51―4）↓［28］
⑤ソロモンの夜明け（『神社新報』／S51―7―5）
⑨野村忠夫著『官人制論』（『史学雑誌』85―8／S51―8）
②「延喜儀式」賀茂祭儀の一考察（『神道史研究』24―6／S51―11）↓［27］

昭和52年（1977）36歳

Ⓚ［23］**『日本の年号』**（雄山閣出版カルチャーブックス／S52―2）
③天皇の称号（別冊歴史読本『歴代天皇123代』新人物往来社／S52―2）
※若木談話室（『神社新報』S51～S52）
1　三歳児教育の試み（S51―4―5）／2　ソロモンの夜明け（S51―7―5）／3　年号の覚え方（S52―3―7）／4　養老の水（S52―5―30）／5　美濃浪人・所郁太郎（S52―9―12）／6　気になること三題―結婚式・学校給食・3DK宿舎―（S52―11―28）
⑥かぐや姫と神童・公達のたどる道（日本子供史Ⅰ『夜明けの子供』第一法規出版／S52―4）
③『年代号略頌』と『年号歌』（『皇學館論叢』10―5／S52―10）↓［24］
③年号研究と群書類従〈追補〉『改元考証土台』の概要紹介（『温故叢誌』31／S52―11）↓［24］
②『延喜式』と「儀式」の関係（『日本歴史』355／S52―12）↓［27］
②『撰集秘記』の引用書考（『史聚』7／S52―12）↓［27］
③明治天皇の一日（『歴史読本』12月特集号／S52―12）

昭和53年（1978）37歳

⑧『年号にみる伝統文化』（皇學館高校講演叢書十一輯／S53―3）↓［42］
③大宝以前の年号（彌永貞三先生還暦『日本古代の社会と経済』吉川弘文館）／S53―5）↓［24］
③歴代天皇略伝（歴史百科『日本人物事典』（新人物往来社）／S53―5）
②『撰集秘記』の基礎的研究（『日本学士院紀要』35―3／S53―6）↓［28］
②天長十年の大嘗会記録（皇學館大學史料編纂所報『史料』2／S53―7）↓［28］
②「寛平御遺誡（逸文・覚書）」（『國書逸文研究』創刊号／S53―8）↓［27］
②「院御書（校異・拾遺・覚書）」（『國書逸文研究』創刊号／S53―8）↓［27］
②「太后御記（校異・参考・覚書）」（『國書逸文研究』創刊号／S53―8）
②『西宮記』青縹紙・青縹書（『史聚』九／S53―11）↓［27］
⑨皇學館大學神道研究所編『大嘗祭の研究』（『神道学』99／S53―11）
⑥「大東亜戦争」を見直す（『大美和』56／S53―12）↓［41］

昭和54年（1975）38歳

⑨『國書逸文』の関する覚書（『國書逸文研究』2／S54―2）
②「蔵人式（逸文・覚書）」（『國書逸文研究』2／S54―2）↓［27］
②「三代御記（補遺・拾遺・参考）」（『國書逸文研究』2／S54―2）↓［29］
②『貫首抄』（蔵人頭口伝）翻刻・解題（『皇學館論叢』12―1／S54―2）
②筆者藤原為房の略伝（『史聚』10／S54―2）↓［28］
②「天應元年記文」管見（皇學館大學史料編纂所報『史料』9／S54―2）

②『撰集秘記』現存写本略解（『藝林』28―1／S54―3）→［28］
①日本の国号（歴史百科『日本地名事典』（新人物往来社／S54―5）
②「三代御記（拾遺・参考・覚書）」（『國書逸文研究』3／S54―8）→［29］
②「貞信公教命」・「小野宮教命」（『國書逸文研究』3／S54―8）→［29］※
④天皇の日中行事（歴史百科『日本皇室事典』新人物往来社／S54―9）
③『元号法』の成立過程（『日本』29―9／S54―9）→［42］
⑧**『天神さまと日本人』**（熱田神宮文化講座講録集／S54―11）→［42］
②『三代御記』索引稿（一）―人名索引―『古代文化』31―12／S54―12）→［29］

昭和55年（１９８０）39歳
②『三代御記』索引稿（二）―官名索引―『古代文化』32―1／S55―1）→［29］
②「三代御記（補遺・追補・覚書）」（『國書逸文研究』4／S55―1）→［29］
Ⓚ［46］**『京都御所東山御文庫本撰集秘記』**（国書逸文研究会／S55―2）（→補訂版）
②『三代御記』逸文出典要覧（上）（『古代文化』32―4／S55―4）→［29］
②『三代御記』逸文出典要覧（下）（『古代文化』32―5／S55―5）→［29］
⑨伝記と人物論の図書案内（歴史百科『日本の歴史書三五〇〇』新人物往来社／S55―6）
③「年代号略頌」の一祖形（皇學館大學史料編纂所報『史料』25／S55―6）→［25］
⑨グレゴリー・クラーク述『ユニークな日本人』（『日本』30―7／S55―7）
②御元服儀式文の成立（『神道学』１０６／S55―8）→［27］
②三代御記の伝来過程（覚書）上（『國書逸文研究』5／S55―8）→［29］
②『令義解』撰者伝（『史正』10〈日本古代・中世史論集〉／S55―10）

昭和56年（１９８１）40歳
⑨国書の逸文発掘（『学士会会報』７５０／S56―1）
⑥代表的日本人　三題（『ぎふの教育』67／S56―12）
②三代御記の伝来過程（覚書）下（『國書逸文研究』6／S56―2）→［29］
⑨白山芳太郎著『職原鈔の基礎的研究』（『日本歴史』３９４／S56―3）
⑥菅公と学校教育（『飛梅』／S56―4？）
②「天暦神祇官勘文」翻刻・覚書（『國書逸文研究』7／S56―8）→［28］
⑤心耳に英霊の声を聴く（『やすくに』／H元→別冊歴史研究『靖国神社』／S56―8）→［41］
⑦吉田松陰『講孟劄記』輪講「尽心上・第二十九章」（『日本』31―8／S56―9）
②王朝人の住吉参詣（『すみのえ』１６２／S56―10）
⑥教科書制度の実情と問題点（『時の課題』／S56―10？）
⑥伊沢修二と唱歌教育（『日本』31―11／S56―11）
③天皇は象徴にすぎないのか（『真世界』50／S56―11？）→［9］

昭和57年（１９８２）41歳
②「延喜天暦御記抄（補遺・覚書）」（『國書逸文研究』8／S57―2）
⑦「祭広木忠信文」に学ぶ（『月刊千早』91／S57―2）
②菅原道真『菅家後集』（『日本』33―2／S57―2）

Ⓚ［29］**『三代御記逸文集成』**（国書刊行会／Ｓ57―4）
②大嘗祭儀式文の成立（神道文化会編『天照大御神』研究篇一／Ｓ57―4）→［27］
②「鴨脚秀文々書」翻刻・覚書（『國書逸文研究』9／Ｓ57―8）→［27］
⑨神社研究史・賀茂大社（『神道史研究』30―4／Ｓ57―10）
③日本年号と水戸史学（『水戸史学』17／Ｓ57―10）→［24］
⑨服部敏良著『日本医学史研究余話』序にかえて（科学書院／Ｓ57―10）
⑥“教科書騒動”の教訓（『ぎふの教育』71／Ｓ57―11）

昭和58年（1983）42歳
⑦坂本太郎先生（『歴史研究』263／Ｓ58―1）
③『歴代御伝』の構想と稿本（覚書）（『國書逸文研究』10／Ｓ58―2）
⑥年始の時期と行事・覚書（『京都産業大学世界問題研究所紀要』4／Ｓ58―3）
②三代御記と『西宮記』の関係（平安博物館編刊『古代学叢論』／Ｓ58―4）→［27］
⑦美濃ゆかりの若水（『神道大系月報』34／Ｓ58―7）
⑨真弓常忠著『日本古代祭祀と鉄』（『日本歴史』423／Ｓ58―8）
⑨大島幸雄・木本好信・菅原邦彦編『朝野群載総索引』（『史聚』17／Ｓ58―9）
⑤社殿と造営・朝野の崇敬・住吉と王朝文学（『住吉大社史』下、住吉大社奉賛会／Ｓ58―10）
⑨白鳥庫吉『國史』―スケールの大きな書き下ろし通史（『週刊読書人』／Ｓ58―10?）
Ⓚ［50］**『新訂　官職要解』**（講談社学術文庫／Ｓ58―11）
⑤斎王（斎宮・斎院）一覧（『日本史総覧』Ⅰ考古・古代1　新人物往来社／Ｓ58―11）
②朝賀儀式文の成立（遠藤元男先生頌寿会編『日本古代史論苑』国書刊行会／Ｓ58―12）→［27］
②「官曹事類（校異・拾遺・覚書）」（『國書逸文研究』12／Ｓ58―12）→［28］
②「江家年中行事（翻刻・覚書）」（『國書逸文研究』12／Ｓ58―12）→［27］
③『類聚国史』の年号表記（皇學館大學史料編纂所報『史料』67／Ｓ58―12）→［24］
③まぼろしの“九州年号”（『季刊邪馬台国』18／Ｓ58―12）→［24］

昭和59年（1948）43歳
④『国民の祝日』＝その由来と意義＝（『ぎふの教育』76／Ｓ59―2）
⑨紹介　田中卓博士著『皇國史観の対決』（『神社新報』／Ｓ59―2―13）
⑤祭主（神宮祭主）一覧（井後政晏氏と共編）（『日本史総覧』Ⅲ中世新人物往来社／Ｓ59―3）
②中原家流の年中行事書（『京都産業大学世界問題研究所紀要』5／Ｓ59―3）→［27］
②『内裏式』の成立と復原（瀧川政次郎博士米寿会編『神道史論叢』国書刊行会／Ｓ59―5）→［27］
②官奏の成立と儀式文（同会編『律令制の諸問題』汲古書院／Ｓ59―5）→［27］
②「延喜・天暦御記」（一条紹介）（『國書逸文研究』13／Ｓ59―6）
②『年中行事秘抄』の成立（『日本歴史』437／Ｓ59―10）→［27］
②年中行事御障子文の成立と伝来（皇學館大學史料編纂所報『史料』74／Ｓ59―12）→［27］
②尊経閣文庫所蔵『官奏事北山抄』（『國書逸文研究』14／Ｓ59―12）→［27］
②異本『北山抄』の外記政等儀式文（『産大法学』18―3／Ｓ59―12）→［27］
②『小野宮年中行事』の成立（『国史学』124／Ｓ59―12）→［27］
②「清涼記」逸文・覚書（『國書逸文研究』14／Ｓ59―12）→［27］

昭和60年（1985）44歳

⑤「忠魂」（『日本』平泉澄博士追悼号／S60—2）
②『年中行事』の古写本と訓点（『産大法学』18—4／S60—3）→［27］
②『江家次第』巻4（除目）裏書（『産大法学』19—1／S60—5）→［27］
⑦“父”とのめぐりあい（加藤良年氏著『ムンダの星』序文／S60—8）
②『江家次第』の古写本と逸文（『京都産業大学世界問題研究所紀要』6／S60—9）→［27］
⑨目崎徳衛校訂解説『侍中群要』（『古代文化』37—9／S60—9）→［28］
②平安朝儀式書成立史関係年表（『國書逸文研究』16／S60—12）→［27］
Ⓚ［27］**『平安朝儀式書成立史の研究』**（国書刊行会／S60—12）

昭和61年（1986）45歳

Ⓚ［47］**『撰集秘記』**補訂版（国書刊行会／S61—1）
③日本の君主制（『ぎふの教育』／S61—1？）
Ⓚ［23］**『日本の祝祭日』**（PHP研究所21世紀新書／S61—3）（→新版／H15—8）
②『春玉秘抄』の残巻と逸文（『京都産大世界問題研究所紀要第7／S61—3）
③年号の覚え方（『暦の百科事典』新人物往来社／S61—3）→［24］
⑨稲川誠一先生遺稿集『日本の歴史と教育』歴史篇・教育篇　編集後記（汗青会／S61—3）
⑦和気清麻呂公略伝（『日本』36—3・4／S61—3・4）→［42］
⑨紹介　『靖國神社写真集』（『神社新報』S61—5—19）
②「諸道勘文（補遺）」（『國書逸文研究』17／S61—6）
⑨『皇室御撰之研究』に関する覚書（『國書逸文研究』17／S61—6）→［37］
③天皇・皇室の基礎知識（別冊歴史読本『天皇家系譜総覧』／S61—10）→［9］
⑨解題『日本国家の成立と諸氏族』（『田中卓著作集』2国書刊行会／S61—10）
⑦偉大な教育者・研究者／稲川先生と教科書問題（汗青会編『稲川誠一先生の想ひ出』／S61—11）
⑦稲川先生への弔辞（汗青会編『稲川誠一先生の想ひ出』／S61—11）
⑦「忠誠院釈行道」先生の最期（汗青会編『稲川誠一先生の想ひ出』／S61—11）
②「行成抄」逸文に関する覚書（時野谷滋博士還暦会編『制度史論集』原書房／S61—12）→［28］
②『春玉秘抄』の復原（『國書逸文研究』18／S61—12）→［28］
⑦確実・明快な坂本史学（解説）（坂本太郎博士『日本歴史の特性』　講談社学術文庫／S61—12）
⑧今なぜ千早で学ぶのか（『日本』36—12／S61—12）

昭和62年（1987）46歳

③菅原氏の勘申した年号（『とびうめ』68／S62—1）→［24］
③智仁勇の御徳（『ぎふの教育』84／S62—1）
⑧**『代表的日本人に学ぶ』**（日本教育会叢書14／S62—3）→［42］
②異本『西宮記』検非違使雑事・覚書（『法史学の諸問題』慶應通信／S62—3）→［28］
⑨紹介　高橋史朗／ハリー・レイ共著『占領下の教育改革と検閲』（『神社新報』S62—3—30）
⑨二十二社研究会編『平安時代の神社と祭祀』（『國學院雑誌』88—5／S62—5）
⑨『本朝書籍目録考証』に関する覚書（『國書逸文研究』19／S62—6）→［37］

⑨高橋史朗著『戦後教育の実像』『占領下の教育と検閲』（『日本』37―6／S62―6）
Ⓚ［37］**『和田英松博士の学恩』**（国書逸文研究会／S62―7）
③一世一元制の史的考察（『産大法学』21―1・2合併号／S62―7）→［24］
③昭和二十一年の『元号法案』関係資料（『産大法学』21―3／S62―10）→［24］
⑨解説　三浦周行博士の『即位礼と大嘗祭』（復刻版『即位礼と大嘗祭』神社新報社／S62―11）
⑦和気清麻呂公略伝（『和気公と護王神社』護王神社奉賛会／S62―11）
②『三代御記逸文集成』補訂（『國書逸文研究』20／S62―12）
③年号の選定方法（『京都産大世界問題研究所紀要』8／S62―12）→［24］
⑥伝えよう日本の心1～12（『れいろう』／H62―1～12）

昭和63年（１９８８）47歳
③中国と日本の年号（『歴史研究』３２１／S63―1）→［24］
④代始諸儀の順序（『神道と現代』上巻（神道文化会）／S63―1）
⑨田中卓著『伊勢神宮と式年遷宮』（『日本』38―2／S63―2）
⑨紹介　皇室法研究会編『現行皇室法の批判的研究』（『神社新報』S63―2―1）
⑦梅と菊と菅公（全国天満宮連合会『余香集』／S63―2）
Ⓚ［24］**『年号の歴史―元号制度の史的研究』**（雄山閣出版／S63―3）（→増補版）
⑤霊元上皇の祈願文（皇學館大學史料編纂所報『史料』90／S63―3）
③昭和の改元と今後の元号（京都産大世界問題研究所報『世界の窓』3／S63―3）→［24］
③年号の選定方法（『京都産大世界問題研究所紀要』8／S63―3）→［24］
⑨解説　出雲路通次郎の『大礼と朝儀』（復刻版『大礼と朝儀』臨川書店／S63―4）
④天皇の日記と日中行事考（『皇室の百科事典』新人物往来社／S63―5）
⑧『日本人の宗教的感性』（世界連邦日本宗教委員会二十周年記念大会報告書／S63―6）→［42］
⑨紹介　田中卓著『歴史と伝統』（『神社新報』S63―9―5）
②「冊命皇后式」所引逸文の検討（補遺・覚書）（『國書逸文研究』21／S63―10）→［28］
⑧歴史の継承（『日本』38―10・11／S63―10・11）
⑥梅と桜に萩と菊（『歴史研究』３３０／S63―10）
④昭和の践祚式と改元（別冊歴史読本『図説・天皇の即位礼と大嘗祭』／S63―11）

平成元年（１９８６）48歳
③「登極令」の成立過程（『産大法学』22―3・4合併号／H元―2）→［13］
④即位礼と大嘗祭（『文藝春秋』二月特別号／H元―2）
②『貞観儀式』と『三代実録』（『創立十周年記念皇學館大學史料編纂所論集』／H元―3）→［28］
⑧平安朝の年中行事と現代の祝祭日（『米沢史学』5／H元―3）→［42］
⑥「古代の私学と大学別曹」・「貴族の家庭教育」（『日本教育史』仏教大学通信教育部／H元―3）
③日本史上の天皇と元号（『月刊プレジデント』3月号／H元―3）→［24］増補版
③元号“平成”の誕生と意義（『文藝春秋』3月号／H元―3）→［24］増補版
③賀茂百樹講義『登極令大要』（翻刻・解説）（『京都産大世界問題研究所紀要』9／H元―3）→［13］
⑨和田英松著『皇室御撰之研究』・帝国学士院編『宸翰英華』（『藝林』38―1／H元―3）
Ⓚ［24］**『年号の歴史［増補版］』**（雄山閣出版／H元―4）

③新元号“平成”の出典（『歴史書通信』64／H元—4）→［24］増補版
①倭建命喪葬の誄歌（別冊歴史読本『「古事記」「日本書紀」総覧』／H元—6）
⑧ロング・インタビュー「平成改元」（読売新聞政治部編『平成改元』行研／H元—6）
④平成の元号（京都霊山顕彰会『維新の道』54／H元—7）
⑨歴史研究の心がけ（歴史研究会編『在野史論』序文、新人物往来社／H元—8）
②『西宮記』の一齣（『日本歴史』556／H元—9）→［28］
②本書の成立と特色（和田英松著『新訂建武年中行事註解』講談社学術文庫／H元—9）→［30］
⑧日本の伝統と革新（『致遠』83／H元—9）
⑨大倉精神文化研究所編『総合研究　飛鳥文化』（『藝林』38—3／H元—9）
⑥京都が「京都」ではなくなる!?（『京都産業大学同窓会報』25／H元—9）
⑧天皇の即位礼と大嘗祭（『鶯の声』11月号／H元—11）→［42］
②「歴代天皇の御記」・「宇多天皇御記」（別冊歴史読本『日本歴史「古記録総覧」』上／H元—11）
③『建武年中行事』の成立と影響（『藝林』38—4／H元—12）→［28］

平成2年（1990）49歳

⑧対談　平成の御大礼（『むとうむへん』48／H2—1）
④平成の大礼を振り返る（『日本』41—2—3／H2—2—3）
⑥昭和天皇の学んだ特製『国史』教科書（『文藝春秋』2月号／H2—2）
④多田好問草稿『登極令義解』の紹介（『続大嘗祭の研究』皇學館大學出版部／H2—3）
④高御座の伝来と絵図（『京都産業大学世界問題研究所紀要』10／H2—3）
③京都御所東山御文庫本『建武年中行事』翻刻・校訂（『藝林』39—1／H2—3）→［28］
④平（谷口）胤禄注進『高御座』勘物（『産大法学』24—1／H2—4）
④高御座とその絵画（生田神社編『即位礼と大嘗祭』国書刊行会／H2—4）
⑨紹介　心に残った一冊　小泉信三著『国を思ふ心』（『神社新報』H2—5—21）
④即位儀礼の意義を考える（『皇室の伝統精神と即位礼・大嘗祭』広池学園出版部／H2—7）
Ⓚ［21］**『国旗・国歌の常識』**（近藤出版社／H2—7）
④皇位の継承に伴う儀式の意味（別冊歴史読本『皇位継承儀式宝典』／H2—8）
⑤御大礼と神宮への親謁（『瑞垣』156／H2—8）
④古儀の即位式（『図録　即位儀礼にみる宮廷文化展』共同通信社／H2—8）
Ⓚ［47］**『京都御所東山御文庫本　建武年中行事』**（国書刊行会／H2—10）
③『礼儀類典』の成立と概要（『國書逸文研究』23／H2—10）→［28］
⑦菅原道真（別冊歴史読本『日本歴史「伝記」総覧』／H2—10）
④宮中の祭祀と国民の祝日（『日本教育』174／H2—10）（→新版／H5—4）
④“慶應”年号の成立過程（『慶應義塾大學法律学科開設百年記念論文集』慶應通信／H2—10）
④即位礼と大嘗祭（『平成時代の幕開け』新人物往来社／H2—11）
④即位礼と大嘗祭の歴史（週刊読売臨時増刊『即位の礼・全記録』／H2—11）
③大正『御即位・大嘗祭絵巻』の紹介（『三浦古文化』48／H2—11）→［13］
⑨書評　神社新報特別取材班編『国王誕生』（『神社新報』／H2—11—5）
④平成の大礼を振り返る（『ぎふの教育』98／H2—12）

平成３年（１９９１）50歳

⓶**『礼儀類典・解説書』**（雄松堂マイクロフィルム出版／Ｈ３—１）→［28］

⑨山中裕著『平安時代の古記録と貴族文化』（『古代文化』43—２／Ｈ３—２）

④平成の即位礼と大嘗祭を振り返る（『日本』41—２—３／Ｈ３—２・３）

⑧現代社会における伝統意識のもつ意味（京都産大世界問題研究所報『世界の窓』６／Ｈ３—３）

⑤遣唐使船への授位（『すみのえ』28—２／Ｈ３—４）

⑥百人一首巻頭の天智天皇御製（神社シリーズ『近江神宮』新人物往来社／Ｈ３—４）

⑥歴史絵画の系譜をたどる（『図録「日本史」総覧』新人物往来社／Ｈ３—４）

⑦『所郁太郎』の再発見（青山松任『所郁太郎』復刻版付録／新人物往来社／Ｈ３—５）

⓻“美濃浪人”所郁太郎（『維新の道』62／Ｈ３—７）→［42］

⓻国旗・国歌の再認識（『日本の教育』３７９／Ｈ３—８）→［42］

②順徳天皇と『禁秘抄』（『モラロジー社会教育資料』１１８／Ｈ３—９）

⓷明治元年即位式記録（戊辰御即位雑記）（『産大法学』25—２／Ｈ３—９）→［13］

⑤葵祭（浜岡昇編『葵祭』京都書院／Ｈ３—10）

⑥ある維新史料の扱い方（『歴史研究』３６６／Ｈ３—11）

⓶『北山抄』逸文補遺・覚書（『國書逸文研究』24／Ｈ３—10）→［28］

⓶明治大嘗祭記録（辛未大嘗祭雑記）（『京都産業大学世界問題研究所紀要』11／Ｈ３—12）→［13］

⑧梅と菊と菅公（全国梅風会編『余香集』／Ｈ３—12）

⓹“父”とのめぐりあい（別冊歴史読本『日本「宗教」総覧』新人物往来社／Ｈ３—12）→［41］

Ⓚ［42］**『歴史に学ぶ』**（新人物往来社／Ｈ３—12）

④皇位の継承儀礼（山中裕・鈴木一雄編『平安時代の儀礼と歳時』至文堂／Ｈ３—12）

平成４年（１９９２）51歳

⓶明治即位式絵図（戊辰御即位雑記付録）（『産大法学』25—３・４／Ｈ４—２）→［13］

⑨永積寅彦述『昭和天皇と私』あとがき（学習研究社／Ｈ４—２）

⑨岩井忠熊・岡田精司編『天皇代替り儀式の歴史的展開』（『比較法史研究』１／Ｈ４—３）

⑧国風文化の成立と展開（要旨）（京都産業大学世界問題研究所報『世界の窓』７／Ｈ４—５）

④明治節と文化の日（神社シリーズ『明治神宮』新人物往来社／Ｈ４—５）

Ⓚ［31］『北山抄』（神道体系編纂会／Ｈ４—６）

⑥幕末の私塾に学ぶ—所郁太郎の場合—（『日本教育』７月号／Ｈ４—７）

②王朝時代の相撲節（別冊歴史読本『日本「相撲史」総覧』新人物往来社／Ｈ４—８）

⑨紹介　白山神社（越前平泉寺）編『白山神社史』（『神社新報』Ｈ４—８—31）

⑦菅原道真伝説（歴史読本特別増刊『日本「神話・伝説」総覧』／Ｈ４—10）

⑥暦の吉凶（『歴史街道』10月号／Ｈ４—10）

③順徳天皇に関する基礎知識（『歴史研究』３７８／Ｈ４—11）

⓷『禁秘抄』の研究史・覚書（藝林会編『順徳天皇とその周辺』臨川書店／Ｈ４—11）→［28］

⑦終生の恪勤—瀧川政次郎博士を偲ぶ（『古代文化』44—11／Ｈ４—11）

平成５年（１９９３）52歳

②「日記の部類記」・「日記と編纂物」（山中裕編『古記録と日記』下巻、思文閣出版／Ｈ５—１）

②大正大礼記録『践祚ノ式』（『産大法学』26―３・４／Ｈ５―１）→［13］
③日本の皇位継承（『比較法史研究』２／Ｈ５―２）→［９］
②順徳天皇の著作に学ぶ（『順徳天皇を仰ぐ』新人物往来社／Ｈ５―３）
④皇太子ご婚儀の歴史（『日本及日本人』1610／Ｈ５―４）
③天皇の歴史（「歴代天皇の特質」和英両文）（『バイ・ザ・ウェイ』３―５／Ｈ５―５）→［９］
④皇太子殿下の御成婚を寿ぐ（『日本』４―５／Ｈ５―５）
Ⓚ［32］『和気清麻呂の絵像集成』（護王神社／Ｈ５―６）
④近現代の皇太子御成婚儀礼／天皇直伝の宮中御心得（別冊歴史読本『日本のしきたり・礼法事典』
新人物往来社／Ｈ５―６）
②平安貴族の日常心得（別冊歴史読本『日本のしきたり・礼法事典』新人物往来社／Ｈ５―６）
⑤二十年ごとに伝える日本の英知（『光の泉』54―６／Ｈ５―６）
Ⓚ［30］**『西宮記』**（神道大系編纂会／Ｈ５―７）
②「禁秘抄」（『歴史と旅』臨時増刊『日本の歴史書１２０選』秋田書店／Ｈ５―７）
③大正大礼記録「改元」（『産大法学』27―２／Ｈ５―７）→［13］
⑦『えにしのふしぎ』所久雄五〇年祭記念（私家版／Ｈ８―７）
⑧皇太子御成婚の儀（皇宮護衛署本部『済寧』ご成婚記念特集号／Ｈ５―８）
⑧政治家としての菅原道真（『九州歴史大学講座』８月号／Ｈ５―８）
⑦菅原道真（別冊歴史読本『日本史を変えた人物二〇〇人』／Ｈ５―９）
③『西記目録』と「西宮十六巻抄」（角田文衞先生『古代世界の諸相』晃洋書房／Ｈ５―９）→［28］
⑨紹介　加瀬英明編『宮中晩餐会―お言葉と答辞―』（『神社新報』／Ｈ５―９―13）
②『西宮記』逸文（覚書・補遺）（『國書逸文研究』26／Ｈ５―10）→［28］
⑥年表の歴史と楽しみ方（別冊歴史読本『日本史年表の基礎知識』／Ｈ５―12）
Ⓚ［21］**『国旗・国家の常識』改訂新版**（東京堂出版／Ｈ５―12）

平成６年（１９９４）53歳
④政府の“祝日法案改正”案を批判する（『ぎふの教育』１０８／Ｈ６―１）
③歴史からみる天皇の特質（京都産大世界問題研究所報『世界の窓』９／Ｈ６―３）→［９］
③大正・昭和の『大礼要旨』（資料紹介）（『京都産業大学世界問題研究所紀要』13／Ｈ６―３）→［13］
④“壷切御剣”に関する御記逸文（『歴史読本』特別増刊『「日記」総覧』／Ｈ６―４）
④歴史の中の祝祭日（『祝祭日の意義を考える』展転社／Ｈ６―４）
⑤「上代の真清田神社」・「近代の真清田神社」（『真清田神社史』同編纂委員会／Ｈ６―５）
⑤宮廷の神事と仏事（『京・御所文化への招待』淡交社／Ｈ６―６）
②平安京の基礎知識（『歴史研究』３９７／Ｈ６―６）
⑤米国でコメを作った日本人（和英両文）（『バイザ・ウェイ』４―４／Ｈ６―６）→［９］
⑦良子女王と杉浦重剛（『日本及日本人』１６１５／Ｈ６―７）
⑨解題『神社と祭祀』（『田中卓著作集』11―Ⅰ、国書刊行会／Ｈ６―８）
④国旗・国歌を考える（『文教』／Ｈ６―８？）
②『西宮記』成立史の一齣（『日本歴史』第５５６号／Ｈ６―９）
⑤桓武天皇の柏原山陵（『歴史研究』４００／Ｈ６―９）
⑤平安神宮の創建前史（『神道史研究』42―４、のち『現代神道研究集成』神社新報社／Ｈ６―10）

⑦美濃の崎門学―廣木忠信の学風―（『日本』44―10／H6―10）
②方位から見る平安遷都（『歴史街道』／H6―10?）
⑥“日本学”のルーツ（『季刊モラロジー生涯学習』131／H6―11）→［9］

平成7年（1995）54歳
⑤将来世代と共生する神宮の英知（『神社新報』／H7―1）→［39］
⑧国歌“君が代”の来歴と意味（『済寧』迎春号／H7―1）
⑨『田中卓著作集』全十一巻の紹介（『日本』45―1／H7―1）
②『新訂増補　國書逸文』代表序文（国書刊行会／H7―2）
⑨「田中卓博士著作集完成祝賀会」謝辞（『伊勢青々』2／H7―2）
②日本の宮廷における唐風儀式の成立（『産大法学』28―3・4／H7―2）
⑥日本建国の神話と歴史（『季刊モラロジー生涯学習』132／H7―2）→［9］
②『西宮記』と『北山抄』の関係（『神道古典研究所紀要』創刊号／H7―3）→［28］
⑥『日本の国旗・国歌』（国民会館講演叢書／H7―3）→［22］
⑨式内社研究会編『式内社調査報告（別巻）総索引』（『藝林』44―2／H7―5）
⑥祝祭日と冠婚葬祭（『季刊モラロジー生涯学習』133／H7―5）→［9］
④大化年号の創建と意義（神社シリーズ『談山神社』新人物往来社／H7―6）
②『禁秘御抄補註』と『大刀契考』覚書（谷省吾先生『神道学論文集』国書刊行会／H7―7）→［28］
⑥国際常識の国旗と国歌（『季刊モラロジー生涯学習』134／H7―8）→［9］
②「資仲抄」・「蔵人式」（『國書逸文研究』28／H7―10）→［28］
③元号の現状と法的根拠（『月刊若木』525／H7―10）→［9］
⑤”常若”の英知―古くて新しい伊勢の神宮―（京都産業大学世界問題研究所所報『世界の窓』10／
H7―11）
②「禁秘記抄（覚書）」（『國書逸文研究』28／H7―12）

平成8年（1996）55歳
Ⓚ［40］**『京都の三大祭』**（角川選書／H8―1）（→新版／H26―6）
③新日本建設詔書」の成立事情と問題点（『日本』第布―1号／H8―1）→［9］
⑤『賀茂注進雑記』に関する覚書（『京都産業大学日本文化研究所紀要』創刊号／H8―3）
⑥“耕す文化”の再生（『大いなり』130／H8―3）→［9］
⑧『日本の自然と歴史の特性』（熱田神宮文化講座講録9『日本人の自然観』／H8―3）
⑤現御神と象徴天皇（別冊歴史読本『日本「宗教」総覧』／H8―4）
⑨田中卓著『住吉大社・中巻』（『神道史研究』44―2／H8―4）
Ⓚ［9］**『皇室の伝統と日本文化』**（モラロジー研究所／H8―6）
⑤伊勢神宮のすべて（別冊歴史読本『日本「神社」総覧　最新版』／H8―6）→［39］
⑤古くて新しい伊勢の神宮（別冊歴史読本『日本「神社」総覧』新人物往来社／H8―6）
⑧倭姫命と日本武尊の物語（熱田神宮「日本武尊を仰ぐ会」講演会記録／H8―8）
②「装束記文（新補・参考・覚書）」（『國書逸文研究』29／H8―10）→［28］
①日本武尊と大和朝廷の成立（『しらとり』10月号／H8―10）
⑨紹介　田中卓博士著『教養日本史』（『神社新報』／H8―11―4）

平成9年（1997）56歳

⑨田中卓博士著『教養日本史』（『神道史研究』45—1／H9—1）

②斎宮年中行事の復原試案（『産大法学』30—3・4／H9—2）→［27］

⑨中山広司遺著『近世日本学の研究』（『藝林』46—1／H9—2）

④象徴天皇・皇室文化の位置づけと扱い方（『ぎふの教育』116／H9—2）

⑨福井俊彦「令義解の撰定と格式の施行」（『法制史研究』46／H9—3）

⑤「賀茂奏事始」に関する覚書（『京都産業大学日本文化研究所紀要』2／H9—3）

⑥日本における釈奠祭儀の特色（『京都産業大学論集』人文系列24／H9—3）→［28］

⑥尾張における学神祭の釈奠（東海地域文化研究所『社会・文化・思潮』風媒社／H9—3）

⑧『日本の伝統と学校教育』（日本教師会叢書23／H9—4）→［22］

⑧『賀茂臨時祭の来歴』（全国賀茂社連合講演録7／H9—7）

⑥解説　白鳥庫吉博士と『國史』教科書（『國史』勉誠出版／H9—4）→［9］

⑥“家族同氏”制度の来歴と意義（比較法史学会編『あうろーら』8／H9—7）

⑧『“家族同姓”の再評価』（全国神社総代会講演記録／H9—7）

⑨平泉澄博士著“**THE STORY OF JAPAN**”（『藝林』46—3／H9—8）

⑤“やすらい祭”の謎を解く（京都産業大学日本文化研究所報『あふひ』3／H9—9）

③『朝儀諸次第』所引「新儀式」逸文（拾遺・覚書）（『國書逸文研究』30／H9—10）→［28］

⑨市村真一編『先哲を仰ぐ・三訂版』（『藝林』47—4／H9—10）

⑥解説　清水澄博士と御進講教科書（**『法制・帝国憲法』**原書房／H9—11）→［18］

⑥“家族同姓”の来歴を見直す（『日本』47—10／H9—11）

平成10年（1998）57歳

③小中村清矩稿『女帝考』（『産大法学』31—3・4／H10—2）→［4］

③小中村清矩稿『皇嗣例』（『藝林』47—1／H10—2）→［4］

⑤神宮奏事始と賀茂奏事始（『瑞垣』179／H10—2）

⑥錦旗の誕生（『歴史読本』2月号／H10—2）

⑤賀茂臨時祭の成立と変転（『京都産業大学日本文化研究所紀要』3／H10—3）→［11］

⑥“家族尊重”の民法と牧野英一博士（『ぎふの教育』120／H10—3）

③明治の“女帝”論議（『あうろーら』1（特集　女と男と家族）／H10—4）→［4］

⑥清水澄博士の「法制・憲法」御進講（『憲法研究』30／H10—5）

⑤祖先と英霊の祭祀を考える（『日本』48—9／H10—10）→［41］

Ⓚ［1］**『皇位継承』**高橋紘氏との共著（文春新書／H10—10）

③皇位の危機と「戦後」のディレンマ（『本の話』増刊号　文藝春秋／H10—10）

⑨加茂正典著『日本古代即位儀礼史の研究』（『藝林』48—4／H10—11）

⑧皇位継承への不安（高橋紘氏との対談）（文藝春秋『諸君！』12月号／H10—12）

④宮中の歌会始を陪聴して（『楠の生いたち』42／H10—3）

平成11年（1999）58歳

⑤吉岡勲先生の著作と日記に学ぶ（水交会『水交』／H11—2）→［41］

②斎王発遣次第の成立（『古代文化』30―2／H11―2）
⑥錦旗の来歴・再検討（『京都産業大学日本文化研究所紀要』4／H11―3）
⑥教科書制度“自由化”への道（文藝春秋『諸君!』3月号／H11―3）
⑥文部省「福地処分」にモノ申す（『諸君！』／H11―3）
③大正即位礼「勅語・寿詞」の成立経緯（『神道史研究』47―2／H11―4）→［13］
⑨紹介　広瀬明正著『一跌再跌この道をゆく』（『神社新報』H11―4―19）
④歴史から見る日本の国旗と国歌（『日本』49―5／H11―5）
④「国旗国歌法」早期成立に総力結集を（『神社新報』／H11―5―31）
④近世天皇の代始諸儀（『歴史読本』6月特集号／H11―6）
⑤世界から注目される“常若”（『神社新報』／H11―6）→［39］
④「君が代」こそ日本の国歌に最適（『日本の息吹』140／H11―7）
③日本は立憲君主国といふ真実の再認識（『神社新報』H11―8―30）
⑧『ハタ（幡・旗）の来歴』（真清田神社東車維持財団講演叢書2／H11―9）
②平安文化人の国際性・素描（京都産業大学日本文化研究所報『あふひ』5／H11―9）
⑥日下部太郎とW・E・グリフィスの交流（『日本』9―9／H11―9）
⑧『日の丸・君が代の法制化と公教育の役割』（国民会館講演叢書29／H11―9）→［22］
⑧対談　「日の丸・君が代」の精髄（『諸君！』／H11―9）
④“国旗・国歌法”制定の意義（『月刊自由民主』10月号／H11―10）
③戦後の“女帝”論議（『比較法史研究』第8号〈特集　複雑系としてのイエ〉／H11―12）→［4］
⑥O・ジェルマントマ氏の『日本待望論』に学ぶ（『楠の生いたち』43／H11―3）

平成12年（2000）59歳
⑤神社に祀られた人々（『歴史研究』465／H12―2）→［41］
⑥“ミカドの国”日本の再発見（『日本』50―2／H12―2）→［22］
Ⓚ［22］**『国旗・国歌と日本の教育』**（モラロジー研究所／H12―3）
⑥『名画に見る日本の歩み』跋文（近代出版社／H12―4）
②王朝の進展（『名画に見る國史の歩み』近代出版社／H12―4）
②『内裏儀式』と『内裏式』の関係（『京都産業大学日本文化研究所紀要』5／H12―3）→［28］
⑤カモ社関係研究文献目録（稿）（松田敬之氏と共編、同右／H12―3）
⑧座談『千年のいのり―神宮・神社の今日的課題―』（伊勢神宮崇敬会叢書6／H12―3）
⑤日本の聖地―古くて新しい伊勢の神宮〈日英両文〉（世界銀行主催『世界の歴史的都市と宗教的聖地に関する国際シンポジウム』ワシントン／H12―5）→［39］
②『新撰年中行事』と『小野宮年中行事』（『神道史研究』49―3／H12―7）→［28］
④『国歌“君が代”の来歴』（『君が代のすべて』（キングレコード／H12―8）
⑦久邇宮良子女王と杉浦重剛（『歴史と旅』9月特集号／H12―9）
⑤伊勢神宮“式年遷宮”の意義（京都産業大学日本文化研究所報『あふひ』6／H12―9）
⑥昭和天皇の教科書『教育勅語』と『日本歴史』（解説）勉誠出版／H12―10）
②冷泉家本『朝儀諸次第』と『釈奠次第』（『藝林』49―4／H12―11）→［28］
①「日本」という国号の生い立ち（『あうろーら』19／H12―11）
⑥「教育勅語」百十年の底力（『日本』50―11／H12―11）

④米国ワシントンで「日の丸」を見て（『楠の生いたち』44／H12―3）

平成13年（2001）60歳

Ⓚ［28］**『宮廷儀式書成立史の再検討』**（国書刊行会／H13―2）
①「日本」国号の成立経緯（『京都産業大学日本文化研究所紀要』6／H13―3）
④後桜町天皇宸記（明和元年大嘗会記事）解説（『京都産大日本文化研究所紀要』6／H13―3）
⑤『賀茂社関係古伝集成』（大間茂氏と共編『京都産業大学日本文化研究所紀要』6 別冊／H13―3）
②太政大臣・摂政・関白（『日本』3・4・5／H13―3・4・5）
⑥日本史のなかの官職と位階（別冊歴史読本『日本史上の官位制度』新人物往来社／H13―4）
⓶菅原道真"一栄一落"の要因（『北野天神根本縁起絵巻』複製、大塚巧藝社／H13―4）→［33］
⑤『ようこそ靖國神社へ』（近代出版社／H12―6）（→新版／R元―10）
⑤"靖国参拝問題"管見（『日本』51―9／H13―9）
⓷『大正大礼記録・解説書』（臨川書店／H13―10）→［28］
⑤賀茂伝説と葵（京都産業大学日本文化研究所報『あふひ』7／H13―10）
⑨飯田瑞穂著作集5『日本古代史叢説』（『藝林』50―3・4／H13―10）
⓹昭和天皇の靖國神社御親拝（昭和聖徳記念財団『昭和』／H13―10）→［41］
Ⓚ［4］**『近現代の「女性天皇」論』**（展転社／H13―11）
Ⓚ［7］**『天皇の人生儀礼』**（小学館文庫／H13―12）
②『三代御記』の逸文に見る菅原道真（『國書・逸文の研究』國書逸文研究会・臨川書店／H13―12）
④天皇の人生儀礼（別冊歴史読本『図説 天皇の儀礼』新人物往来社／H13―12）
⑥母校・祖国を担って立つ気迫（『楠の生いたち』45／H13―3）

平成14年（2002）61歳

⑥"敬愛"教育の実践（『ぎふの教育』130／H14―1）
Ⓚ［33］**『菅原道真の実像』**（臨川書店選書／H14―2）
⑥教育再建のために（『山紫水明』50／H14―2）
⑧『皇室典範と女帝問題の再検討』（『國民會館叢書』41／H14―3）
⓹菅原道真の宗教観（『京都産業大学論集』人文科学系列29／H14―3）→［33］
⑦菅原道真公千百年祭を迎えて（『日本』52―3・4／H14―3・4）
⓶三善清行（『国文学 解釈と鑑賞』67―4／H14―4）→［33］
⓹菅原道真と天神信仰（別冊歴史読本『日本神社名鑑』新人物往来社／H14―3）→［42］
Ⓚ［41］**『靖國の祈り遙かに』**（神社新報社／H14―7）
⑧明治・大正・昭和に学ぶ（『昭和』6・7／H14―6・7）
⑥昭和天皇と教育勅語（『昭和』9／H14―9）
⓷「皇室典範」と女帝問題の新論点（『歴代皇后人物系譜総覧』新人物往来社／H14―10）→［4］
⑤天神信仰の研究史と問題点（『神道史研究』50―3・4／H14―12）
⑥秋の園遊会参列の記（『伊勢青々』51／H14―12）
⑨紹介　問題点だらけのビックス著『昭和天皇』（『神社新報』H14―12―28）
⓺"あの道この径"『産経新聞』大阪本社版夕刊、同16年3月まで毎週火曜日連載98回）→［43］

平成15年（２００３）62歳

⑤総解説　伊勢神宮（別冊歴史読本『伊勢神宮と全国「神宮」総覧』新人物往来社／Ｈ15―３）
⓼『神宮・皇室と日本人』（伊勢神宮崇敬会叢書８／Ｈ15―３）→［39］
⓺『たいせつなこと』（明治神宮崇敬会／Ｈ15―３）→［10］
⑤菅原道真と天神信仰（『皇學館大學神道研究所紀要』19／Ｈ15―３）
⑤京都における天神信仰の展開（『京都産業大学日本文化研究所紀要』７・８／Ｈ15―３）
⑦“正論”を貫いた菅原道真（産経新聞社『正論』／Ｈ15―３）
⑨紹介　平泉澄博士著『THE HISTORY OF JAPAN』ⅠⅡⅢ（『神社新報』Ｈ15―３―24）
②「桓武天皇と平安遷都」「宇多天皇と関白抗争」「一条天皇と道長の栄華」「親政から摂関・院政へ」「皇位継承略系図」（以上、歴史群像シリーズ69『歴代天皇全史』学習研究社／Ｈ15―５）
⑤靖国“　”公式参拝のかたち（『VOICE』８／Ｈ15―８）
⑤京都地名散策―神山（『京都新聞』８月29日／Ｈ15―８）
⑤楠公回天祭の来歴（『日本』54―10／Ｈ15―10）
②『西宮記』と『雑類略説』の関係（『史料』１８８／Ｈ15―12）
③今上陛下の古稀奉祝（『日本の息吹』12月号）（『日本』53―12／Ｈ15―12）
⑥高校生も感奮させた鍛錬会（日本学協会千早委員会編『存道』／Ｈ15―12）

平成16年（２００４）63歳

④“日の丸・君が代”のもとに（明治神宮崇敬会『代々木』正月号／Ｈ16―１）
⑨『先哲を仰ぐ』と『平泉博士史論抄』（田中卓編『平泉澄博士全著作紹介』勉誠出版／Ｈ16―２）
⑥母性の回復が日本を救う（『白鳩』２／Ｈ16―２）
①葛城カモと山背カモの関係（『京都産業大学日本文化研究所紀要』９／Ｈ16―３）
⓺平安宮廷文化への憧れ（『季刊学術コンソーシアム通信』７／Ｈ16―３）→［43］
⑨今あらためて『愛国心の目覚め』を読む（『楠の生いたち』48／Ｈ16―３）
⑦濃飛ゆかりの円空さん～神仏一如の彫刻と和歌～（『ぎふの教育』１３６／Ｈ16―３）
⑤賀茂大社と祭礼の来歴（日本の古社シリーズ『賀茂社』淡交社／Ｈ16―４）
③歴代天皇の理想（モラロジー研究所『れいろう』で毎月連載／Ｈ16―４～18―12）→［６］
⑤国民奉賛による式年遷宮の意義（『瑞垣』１９８／Ｈ16―６）→［39］
⓷“皇室の危機”打開のために『Voice』８／Ｈ16―８）→［３］
⑦『所かなを一人百首』米寿記念（私家版／Ｈ16―８）
⑤“心のふるさと”伊勢神宮（『文藝春秋』特別版「和の心・日本の美」／Ｈ16―９）
⓷皇室の御公務を見直すために（『Voice』９／Ｈ16―９）→［３］
②後醍醐天皇の御著作に学ぶ（『日本』54―９／Ｈ16―９）
②阿衡紛議と菅原道真（和漢比較文学会編『菅原道真論集』勉誠出版／Ｈ16―２）
⑧『日本の建国と発展の原動力』（モラロジー研究所・生涯学習ブックレット／Ｈ16―11）
⓼『昭和天皇のご理想』（八坂神社崇敬会／Ｈ16―12）→［10］
⑧戦没者の慰霊と収骨の継承（『祖國と青年』３１５／Ｈ16―12）
Ⓚ［43］**『あの道この径一〇〇話』**（モラロジー研究所／Ｈ16―12）

平成17年（２００５）64歳

③皇室の歴史（『BAN』正月号／H17—1）
③聖徳太子憲法と現代（『産経新聞』／H17—1—22）
③皇室永続、多様な工夫で（『毎日新聞』／H17—1—24）
⑧『今上陛下のご理想』（全国清々会／H17—2）
③最近の"女性天皇論議"（『歴史研究』２「女帝の時代」特集／H17—2）→［3］
③有資格者を増やし安定継承を（『京都新聞』／H17—2—2）
⑤"心のふるさと"伊勢の神宮（『楠の生いたち』49／H17—3）
⑥昭和天皇の近代的帝王学（西尾幹二編『新地球日本史』Ⅰ扶桑社／H17—4）
③皇位の男系継承史と女帝容認論の検証（『歴史読本』５／H17—5）→［3］
⑧『"たいせつなこと"のすすめ』（四柱神社／H17—6）
③皇位継承の在り方に関する管見（『産大法学』39—2／H17—9）→［3］
③上代"女帝"のマツリゴト（『神道史研究』53—2／H17—10）
⑤戦後歴代首相の〜靖国参拝総点検（『Voice』９／H17—9）
③歴代の后妃と女帝の役割（『歴史読本』11　特集「歴代皇后全伝」／H17—11）→［3］
④昭和天皇の御大礼と皇室祭祀『昭和天皇記念館』図録／H17—11）
⑧本真に"たいせつなこと"を学ぶ（裏千家談交会「学校茶道指導者研修会講義録」／H17—11）
③皇室典範の段階的改正論（『神社新報』／H17—12—12）→［3］

平成18年（２００６）65歳

Ⓚ［3］**『皇位継承のあり方』**（PHP新書／H18—1）
③女帝否認論と女系懐疑論の問題点（『歴史研究』正月号／H18—1）→［3］
③新しい皇室像のスタート（『理想世界』正月号／H18—1）
③貴重な皇室平成７年の歩み『BAN』正月号／H18—1）
⑨平泉澄博士著『中世に於ける精神生活』〈新訂版〉編輯解説（錦正社／H18—2）
⑦村尾次郎博士を偲ぶ（『日本』57—2／H18—2）
③新しい皇室像への期待（『楠の生いたち』50／H18—3）
③近世女帝のマツリゴトに関する『天皇実録』抄（『京都産大日本文化研究所紀要』11／H18—3）
⑧女性皇族と雛まつり（『史聚』38／H18—3）
③『歴代天皇　知れば知るほど』序文（実業之日本社／H18—4）（じっぴ新書／H26—12）
⑤全国植樹祭と伊勢の式年遷宮（『中日新聞』／H18—5—20）
⑥"母性尊重"の長所を活かそう（『京都新聞』／H18—6—4）
⑦時野谷滋博士の事績と学徳（『日本』56—7／H18—7）
③『天皇・皇族実録』の成立過程（『産大法学』40—1／H18—7）
⑤靖国祭神の要件と合祀の来歴（『藝林』55—2／H18—10）
③皇室典範の改正論議は皇室会議で（読売ウィークリー増刊『悠仁さま』／H18—10—7）
⑥日本文化の特性を感得するために（『国際文化研修』53／H18—10）
⑥京都産大の"むすびわざ"（『京都産業大学同窓会報』42／H18—10）
⑥高校の地歴科と教科書の在り方（『日本の教育』５４７／H18—11）
⑦『マツリ文化を考える―ふるさと揖斐川の再発見』（揖斐川町教育委員会講演記録／H18—11）
⑧京都産業大学の創立と"学歌"（『大学の歴史と京都産業大学』講義記録／H18—11）

⓷宮家制度の来歴と役割（『歴史読本』／Ｈ18―11）→［3］
⓹「靖国」とは何か（『時局』12／Ｈ18―12）

平成19年（２００７）66歳
③今上陛下の直系御永続に光明（『BAN』正月号／Ｈ19―1）
④年中行事を楽しむ～＠（裏千家編『淡交』1月～12月連載／Ｈ19―1）
⑨細谷勘資氏遺稿集『中世宮廷儀式書式変更の研究』本書の要点と特色（勉誠出版／Ｈ19―2）
⑦“河童遊和国・カッパ祭り”の夢（『揖斐川の祭りと踊り』揖斐川町教育委員会／Ｈ19―2）
⑨田中卓博士著『祖國再建』に学ぶ（『日本の教育』550／Ｈ19―2）
⑥高校の地歴科と教科書の在り方（『楠の生いたち』51／Ｈ19―3）
④後桜町天皇の即位式の概要（『京都産業大学本文化研究所紀要』12／Ｈ19―3）
③聖徳太子憲法関係研究文献目録（稿）（『産大法学』40―3・4／Ｈ19―3）
④「昭和の日」を意義ある祝日に（『日本』57―4／Ｈ19―4）
⑥「こどもの日」は母に感謝する日（『中日新聞』文化欄／Ｈ19―4―29）
⓷「万世一系の天皇」とは何か（『産大法学』51―1／Ｈ19―5）→［3］
③passato e presente del TENNO（伊 Lims mistero giappone／Ｈ19―5）
⑤“富田メモ”の読み解き方（『日本』57―6／Ｈ19―6）
⑤「みたま祭」の来歴と意義（『やすくに』7／Ｈ19―7）
⑦『母を偲ぶ』所かなを五十日祭記念（私家版／Ｈ19―8）
⑤戦後再考―戦没者慰霊の形（『京都新聞』文化欄／Ｈ19―8―15）
⑨『古事類苑』と広池千九郎博士（『モラロジー研究所報』9／Ｈ19―9）
③『本朝皇胤紹運録』と現行の御歴代数（『土車』115／Ｈ19―10）
④後桜町女帝の大嘗祭と新嘗祭（『日本歴史』713　歴史手帖／Ｈ19―10）
⓷皇子（皇女）の多様な在り方（『歴史読本』10、特集「天皇家と皇子」／Ｈ19―10）→［3］
⑤靖国神社「みたま祭」の成立と発展（『明治聖徳記念学会紀要』復刊第弘号／Ｈ19―11）

平成20年（２００８）67歳
④年号制度の基礎知識Ｑ＆Ａ（『歴史読本』53―1 特集「日本の年号」／Ｈ20―1）
③皇室―御即位二十年目の展望（『BAN』正月号／Ｈ20―1）
⓷天皇・皇后両陛下と日本人（『WiLL』／Ｈ20―2）→［3］
④世界の「建国記念日」要覧（『日本』58―2／Ｈ20―2）
⑧『日本的な家庭と学校の役割』（『モラロジー女性クラブ全国大会・記録集』／Ｈ20―3）
⑧『「国民の祝日」の来歴検証と国際比較』（国民会館叢書76／Ｈ20―3）
⑦誠実な藤木邦彦先生への感謝（『史聚』41／Ｈ20―3）
⑦母から学んだ「おかげさま」（『楠の生いたち』52／Ｈ20―3）
⑥“聖徳太子”否定論は認め難い／「南北朝全体」の正確な記述を（『藝林』57―1／Ｈ20―4）
⑥「教育基本法」改正と歴史教育の改善（『日本』58―5・6／Ｈ20―5・6）
⓷皇室制度の問題点と改善策（『学士会報』／Ｈ20―9）→［3］
⑥天皇を敬愛する国民の育成（『弘道』１０５４／Ｈ20―6）
⑤沖縄戦慰霊碑の真実（『日本』58―6／Ｈ20―6）

⑨『歴代御記』と廣池千九郎博士（『モラロジー研究所所報』8／H20―8）
③皇室制度の建て直し案（『学士会々報』872／H20―8）
③五箇条の御誓文と明治の改元（明治神宮国際神道文化研究所編『神園』創刊号／H20―10）→［12］
⑤"靖国問題"の貴重な資料と論集（『藝林』57―2／H20―10）
⑧「シンポジウム日本文化の源流を求めて」基調講演（『弘道』1057／H20―12）

平成21年（2009）68歳

④「平成」の理想と課題（『理想世界』／H21―1）
④象徴天皇の祭祀と公務（『BAN』正月号／H21―1）
⑦揖斐川「献上蛍」ゆかりの人々（『郷土読本 揖斐川町ゆかりの人々』町教育委員会／H21―2）
⑤皇室祭祀と神宮祭祀（『宗教と現在がわかる本2009』／H21―3）
⑦小川常人氏への弔辞（『日本』59―3／H21―3）
④「平成」の理想と課題（『楠の生いたち』53／H21―3）
⑨小原・鈴鹿両家当主の見識と寄託資料の価値（『皇學館大学神道研究所紀要』25／H21―3）
④象徴天皇の重要な"まつりごと"（『藝林』58―1／H21―4）
⑤真弓常忠氏の住吉大社本殿創建論への管見（皇學館大学史料編纂所『史料』221／H21―6）
Ⓚ［51］『皇室事典』高橋・米田両氏と共編（角川学芸出版／H21―5）（→新版R元―11）
⑥明治維新の原動力（『日本』59―6／H21―6）
⑦橋本景岳より母堂あて自筆書翰（『藝林』58―2／H21―10）
③昭和20年8月15日、少年皇太子の御決意（『藝林』58―2／H21―10）
⑤西村茂樹博士の道徳的皇室論（『弘道』1062／H21―10）→［19］
⑧「象徴天皇の"まつりごと"」（歴史研究会第25回全国大会『首都圏大会資料集』／H21―10）
④「平成」の理想を仰ぐ（『モラロジー研究所所報』588／H21―11）
③歴代の天皇と現在の皇室に関する覚書（『日本』59―11／H21―11）→［19］
⑨書評　宮内省編『道』新装版（『神社新報』／H21―11―2）
③"お言葉"に見る今上陛下の歩み（『歴史読本』54―12／H21―12）
⑦葦津珍彦生誕百年／靖国神社を護る論戦の展開（『神社新報』／H21―12）
①纒向遺跡は崇神天皇の宮跡か（『産経新聞』文化欄／H21―12―31）

平成22年（2010）69歳

①日本建国史の再検証（『日本』60―2／H22―2）
③天皇陛下はなぜお忙しいか（『モラロジー研究所所報』／H22―3）
⑤『賀茂臨時祭絵巻』詞書の翻刻・解説（『京都産業大学日本文化研究所紀要』15／H22―3）→［11］
⑧皇室の生活文化に見る伝統の多様性（『比較生活文化研究』16／H22―3）
③今上陛下と『論語』（『楠の生いたち』54／H22―3）
④「国民の祝日」の意義を見直す（『藝林』59―1／H22―4）
⑥廣池千九郎博士の"万世一系"　最高道徳の再検討（2009年モラルサイエンス国際会議報告書『廣池千九郎の思想と業績　モラロジーへの世界の評価』／H22―7）→［10］
⑤今上陛下の戦没者慰霊に学ぶ（『日本』60―7・8、日本学協会／H22―7・8）→［10］
④近現代の大喪と大礼のすべて（『歴史読本』55―8　特集「皇位継承の真相」／H22―8）

⑥今上陛下の具現される最高道徳（『モラロジー研究』66／Ｈ22―9）→［10］
③皇族の"養子"に関する史的考察（『産大法学』44―2／Ｈ22―9）→［3］
⑥フランクリンの徳目と昭憲皇后の御歌（『藝林』59―2／Ｈ22―10）→［10］
④「国民の祝日」の来歴と特色（『都市問題』１０１―10　東京市政調査会／Ｈ22―10）
③「皇族の降下に関する施行準則」関係資料の解説（『日本』60―10／Ｈ22―10）→［3］
⑤天皇の祭祀の世界（『歴史人』第3号　ＫＫベストセラーズ／Ｈ22―10）
③三代受け継がれる"徳"の心（『皇室の二十世紀』19　小学館／Ｈ22―10）
⑥**「〈教育勅語〉関係資料（抄）」**（明治神宮崇敬会／Ｈ22―10）→［10］
⑥東宮「倫理」担当杉浦重剛の「教育勅語」御進講（『明治聖徳記念学会紀要』47／Ｈ22―11）
⑥「教育勅語」誕生の経緯と特徴（『日本』60―12／Ｈ22―12）→［10］
⑥元田永孚の「仏蘭克林十二徳」補注と漢詩（『産大法学』43―3・4／Ｈ22―3・4）→［10］
⑨青山隆生他著『靖国の源流』を読む（『神社新報』／Ｈ22―12―27）

平成23年（２０１１）70歳

⑥学問・教育に熱心な皇室の方々（『ＢＡＮ』正月号／Ｈ23―1）
①美濃ゆかりの神々（『伊奈波だより』正月号／Ｈ23―1）
⑥「教育勅語」の成立と展開（『産大法学』44―4／Ｈ23―2）→［16］
⑥古希随想「歴史と共に七十年」（『歴史研究』／Ｈ23―3～23―12）→［44］
⑦「美濃浪人」所郁太郎の史料探訪（『岐阜県郷土資料研究協議会々報』１１５／Ｈ23―3）
⑧シンポジウム「賀茂斎王―千二百年の歴史と文学」相互討論（榎村寛之・後藤祥子・小林一彦・所功）（『京都産業大学日本文化研究所紀要』16／Ｈ23―3）
⑤元禄七年書写『賀茂祭草子』（『京都産業大学日本文化研究所紀要』16／Ｈ23―3）解説
⑧『象徴天皇のマツリゴト』（霞会館講義記録／Ｈ23―3）→［10］
⑥「神話から歴史へ」の道筋（『藝林』60―1／Ｈ23―4）
②平安時代にも各地で激発した大地震（『WiLL』6／Ｈ23―6）
⑦濃尾大震災の復興と庶民教育の底力（『ぎふの教育』１５８／Ｈ23―6）
⑥明治天皇と教育勅語④～⑥（『関西師友』54―6～11／Ｈ23―6～11）→［10］
③両陛下こそ日本人の心の拠り所（『WiLL』7／Ｈ23―7）→［10］
④「君が代」日本の再生に向けて（『国民会館だより』19／Ｈ23―7）
⑦明治維新に学ぶ（『維新の道・岐阜』30／Ｈ23―7）
④「国旗掲揚・国歌斉唱」励行条例の画期的意義（『日本』60―8／Ｈ23―8）
②菅原道真の地震論と『類聚国史』の地震記事（『藝林』60―2／Ｈ23―10）
③「皇室典範」改正問題の核心（『WiLL』10／Ｈ23―10・11・12）→［3］
①日本国家の成立過程と美濃の役割（『ぎふの教育』１５９／Ｈ23―10）
③「女性宮家」の創設（『読売新聞』／Ｈ23―12―29「論点」）
⑥半世紀前の大学生活（『楠の生いたち』55／Ｈ23―3）

平成24年（２０１２）71歳

⑦同齢盟友　高橋紘氏を偲ぶ（Ｈ24―1）→［44］
③大震災に即応された皇室に学ぶ（『ＢＡＮ』正月号／Ｈ24―1）

⑧皇室に学ぶ日本人の底力（『神戸木鶏』Ｈ24—１）
③「皇室典範」の問題点と改正への試論（『産大法学』45—３・４／Ｈ24—２）
③皇室の危機と女性宮家の創設（『WiLL』２／Ｈ24—２）→［３］
③皇族女子を当主とする宮家の創設が必要（『SAPIO』／Ｈ24—２）
③皇族女子を当主とする宮家の設立と在り方（『日本』62—９／Ｈ24—２）
③宮家世襲の実情と「女性宮家」の要件（『正論』３／Ｈ24—３）→［３］
③後桜町女帝の政事・歌道に関する覚書—公事関係『実録』抄／歌道伝授関係記事抄—（『京都産業大学日本文化研究所紀要』17／Ｈ24—３）
⑤伝承伊勢斎王の再検討（皇學館大学創立百三十年記念論集『伊勢神宮と日本文化』／Ｈ24—３）
Ⓚ［10］『皇室に学ぶ徳育』（モラロジー研究所／Ｈ24—３）
Ⓚ［44］『古希随想—歴史と共に七十年—』（綜合出版社［歴研］／Ｈ24—３）
⑦『野中の歩みと社寺の営み』（私家版／Ｈ24—３）
③象徴天皇は何故お忙しいか～御公務の内容と意義（『ぎふの教育』１６０／Ｈ24—３）

古希以後の論考目録

③四親王家と近現代の宮家一覧（『藝林』61—１／Ｈ24—４）
①千三百年前の『古事記』を読む（『道徳科学研究センター・ニューズレター』／Ｈ24—４）
⑥本学学歌に見る建学の精神—自校教育講義「大学の歴史と京都産業大学」から—（『京都産業大学大学史編纂室ニュース』３／Ｈ24—４）
③皇室の永続に何が必要か（「國民會館ウェブサイト」／Ｈ24—６）
⑧女性宮家と皇位継承（大石眞氏との対論）（『京都新聞』／Ｈ24—６—６）
③「女系」排除せず議論を／数十年先を見越し対応策を（『京都新聞』Ｈ24—６—16）
⑨高橋紘氏の遺稿『人間　昭和天皇』の背景（『比較文明研究』17／Ｈ24—６）
Ⓚ［３］『皇室典範と女性宮家—なぜ皇族女子の宮家が必要か—』（勉誠出版／Ｈ24—６）
⑤皇族女子の神明奉仕（『京極』３／Ｈ24—７）
⑤首相公式参拝は春秋の例大祭に（『産経新聞』／Ｈ24—８）
⑧皇統の永続のために・対論（『皇室典範を改正しなければ宮家がなくなる』藤原書店／Ｈ24—９）
③資料紹介「宮内省編『桂宮実録／淑子内親王実録』綱文」（『藝林』61—２／Ｈ24—10）
③宮家制度の成立と展開（『皇學館論叢』45—６／Ｈ24—10）
⑦吉田松陰とその家族（郷学研究所『季刊郷学』81／Ｈ24—10）
⑧日本人の”底力”を見直す（『Papoter』89／Ｈ24—10）
⑨天皇こそ日本のソフトパワー（『まんがと図解でわかる天皇のすべて』監序、別冊宝島／Ｈ24—11）
⑨『古事記』がよくわかる事典』監序（ＰＨＰ研究所／Ｈ24—11）
⑧皇室に学ぶ徳育（「大切なことを学ぶ会」創立五周年記念講演記録／Ｈ24—11）
③「女性宮家案」に”違憲の疑い”は無い（『日本』62—12／Ｈ24—12）

平成25年（２０１３）72歳

③Chikuro Hiroike. s Concept of Supreme Morality and the "Unbroken Line of Succession of the Imperial House of Japan"（『モラロジー研究』70／Ｈ25—２）
③皇室制度に関する有識者ヒアリング（第六回）記録（『モラロジー研究』70／Ｈ25—２）

④共同研究成果報告「近世の朝廷と賀茂に関する史料の研究と活用」「近世の女帝と宮廷社会に関する研究」（若松正志氏と連名）（京産大日文研所報『あふひ』18／H25―3）

③皇室制度の来歴と永続の努力（『Voice』／H25―3）

①『古事記』の崩年干支と『日本書紀』の紀年法（『藝林』62―1／H25―4）

⑤遷宮と私／食前に手を合わせる心の大切さ（『産経新聞』／H25―4）

③無責任な“皇太子殿下ご退位”勧誘論（『藝林』62―1／H25―4）

⑤総理と靖国神社“公式参拝”は例大祭に（『藝林』62―1／H25―4）

④皇室の儀礼としきたり（『一個人』6月号特集「皇室の真実」／H25―4）

⑦吉田松陰のイトコ論に学ぶ（かんせいPLAZA／H25―4）→［45］

⑦美濃の名水―養老の“菊水”と武儀の“森水”―など（かんせいPLAZA／H25―4）→［45］

⑦元正女帝と養老改元の画期的意義（講演記録4回分載）（かんせいPLAZA／H25―4）

③天皇の存在―日本国の元首、国民統合の象徴―（『京都新聞』など／H25―4―29）

⑤南北戦争・戊辰戦争と戦没者の慰霊・顕彰（『やすくに』／H25―5）

③日本国憲法『天皇』章の改正試案（かんせいPLAZA／H25―5）

⑥博物館で見初めた3人のミューズ（かんせいPLAZA／H25―5）

⑤出雲を訪ね大社の遷御を拝して（かんせいPLAZA／H25―5）→［45］

⑨植村和秀著『日本のソフトパワー』を読む（かんせいPLAZA／H25―5）

④日本国について考える　ゴールデン・ウィーク（『ぎふの教育』１６５／H25―5）

③皇太子殿下御成婚20周年を迎えて（『日本』6月号／H25―6）

③週刊新潮の暴走記事と“水面下の動き”への厳重抗議（『日本』6月号／H25―6）

③『初心者にもわかる　昭和天皇』監序（メディアックス／H25―7）

⑧『お伊勢さんの式年遷宮と廣池千九郎』（モラロジー研究所ブックレット／H25―9）

⑤伊勢神宮―秘められた英知―（『産経新聞』H25―9―30）

⑤江戸時代の「おかげまゐり」と「せぎゃう」（『ぎふの教育』１６６／H25―10）

⑤天皇陛下の御祭拝と皇族男女の拝礼『日本』8月号

⑨『歴史に学ぼう、先人に学ぼう』6・選考の総評と所感（モラロジー研究所／H25―11）

⑧『日本国憲法「天皇」の再検討』(國民會館講演叢書92／H25―11)

⑦徳富蘇峰　終戦半年後の皇室論（『日本』63―11／H25―11）

⑧『「おかげまゐり・せぎょう」と日本人のソフトパワー』（大阪盛和塾『利他実践』31／H25―12）

平成26年（２０１４）73歳

④日本年号制度の成立と展開（編序）（『日本年号史大事典』雄山閣／H26―1）

④お正月の意味（『装道』／H26―1）

⑤天皇陛下の祭祀と内廷皇族の役割（『WiLL』2月号／H26―2）

⑧戦死者の慰霊顕彰と遺志継承（靖國神社崇敬会「あさなぎ」関西支部講演記録集／H26―2）

①古代女帝の適法性と徳治の検証（『モラロジー研究　第72号』／H26―3）

③後桜町女帝の書写伝授された『仮名論語』（『京都産業大学日本文化研究所紀要』19／H26―3）

⑤明和八年『御陰参り百人一首』（皇學館大学『神道研究所紀要』30／H26―3）→［39］

④平和達成を願う元号（隔月刊『装道』陽春号239号／H26―3）

④宮廷文化とその活用（『クールジャパン宮廷文化会議初年度報告書』／H26―3）

Ⓚ［39］『伊勢神宮と日本文化　―式年遷宮"常若"の英知―』（勉誠出版／H26―4）
⑥講和独立直後の"戦犯"釈放署名運動（『藝林』63―1／H26―4）
⑥年度初め身辺あれこれ　『三方よしの人間学』と累代教育（かんせいPLAZA／H26―4）→［45］
③宮内庁編『昭和天皇実録』（全60巻、1万2000頁）への談話、コメント（H26―4）
1「若き帝　修養の日々乃木への敬慕」（『毎日新聞』H26―9―9朝刊）
2「摂政時代の様子も詳述」（『京都新聞』H26―9―9）
3「養育担当（民権運動関与の桑野鋭）にも焦点」（『毎日新聞』H26―9―9夕刊）
4「昭和天皇、性格培われた時期詳述」（『読売新聞』H26―9―10）
5「昭和天皇　五つの逸話」（『週刊文春』H26―9―18）
6「博物博士」になりたい　歴史・生物学への関心」（『朝日新聞』H26―9―18）
7「率先して困難に立ち向かう手本を示す」（『朝日新聞』H26―9―19）
8「「裕仁イソップ」創作　宮中のクリスマスと遊び」（『朝日新聞』H26―9―20）
⑦橋本景岳（左内）とその家族（『日本』64―5／H26―5）
⑥世界文化遺産の富岡製糸から学ぶこと（『装道』初秋号／H27―9）
⑥文部科学省編『私たちの道徳』を活用しよう（『ぎふの教育』169／H26―6）
③「皇位は世襲」の皇室永続に向けて（『日本』64―8／H26―8）
③『昭和天皇実録』1万2000ページを読み解く（『SAPIO』11月号／H26―10）
③『昭和天皇実録』の大御歌（『藝林』63―2／H26―10）
③産経特報「政府方針」への素朴な疑問（かんせいPLAZA／H26―10）
③『昭和天皇実録』を読み解く⑤――天皇の多様な帝王教育（『週刊朝日』／H26―10―24）
③『昭和天皇実録』大御歌に見る大御心（『装道』晩秋号／H26―11）
③皇室の永続に多様な英知活用が必要（『産経新聞』／H26―11―26）
⑥京都新聞大賞〈教育社会賞〉の受賞に感謝（かんせいPLAZA／H26―12）→［45］
⑥藝林会学術研究会〈平泉澄博士をめぐる諸問題〉雑感（かんせいPLAZA／H26―12）

平成27年（2015）74歳

③宮内庁編『昭和天皇実録』に見る大御歌（その一）（『歴史研究』／H27―1）→［19］
⑥新しい教科書制度の在り方を考える（『装道』新春号／H27―1）
⑥箱根駅伝を見て思うこと（かんせいPLAZA／H27―1）→［45］
④パスポートの表紙デザインは菊紋（かんせいPLAZA／H27―1）
③昭和天皇の学ばれた帝王学（前篇）（『伝統と革新』18／H27―2）
①ヤマト朝廷の建国過程と神武天皇即位紀元（かんせいPLAZA／H27―2）
④後桜町女帝の即位式用『宝冠』考（『京都産業大学日本文化研究所紀要』20／H27―3）
④「柳原紀光日記『愚神』抄―三写本対比―」（『京都産大日本文化研究所紀要』20／H27―3）
③皇族の活動と離籍皇族の皇室奉賛（かんせいPLAZA／H27―3）
④宮中歌会始の御題「本」に学ぶ（『装道』陽春号／H27―3）
③歴史好きの少年皇太子と白鳥御用掛（白鳥庫吉著『昭和天皇の教科書　国史』全五巻縮写本　解説・補論、勉誠出版／H27―4）
⑥品性とはHABITUS・凛々しさの表れか（かんせいPLAZA／H27―4）→［45］
③天皇皇后両陛下のパラオ慰霊行幸啓（かんせいPLAZA／H27―4）

④明治天皇と元号（『暦文協NEWS』９／H27―４）
⑧相互討論　平泉澄博士をめぐる諸問題（『藝林』64―１／H27―４）
④柳原紀光日記「明和」改元記事（『藝林』64―１／H27―４）
⑥吉田松陰の“神を拝む心”（『装道』初夏号／H27―５）→［45］
※『月刊朝礼』日本学広場（連載１～60）（コミニケ出版／H27―4～R２―３）うち40話→［45］
⑦吉田松陰と長原武・梁川星巌（かんせいPLAZA／H27―５）→［45］
⑥昭和天皇の学ばれた帝王教育―学習院初等学科(下)―（『伝統と革新』19／H27―５）
④宮中の祭祀に重要な雅楽（CBC特別企画、宮中雅楽公演冊子『雅』／H27―５）
⑦吉田松陰と美浪垂井出身の長原武（「ぎふの教育」６／H27―６）→［45］
⑨白鳥庫吉著『(昭和天皇の教科書) 国史』について語る（『SAPIO』７／H27―６）
⑥東宮御教育常時参与の小泉信三博士に学ぶ（かんせいPLAZA／H27―６）
③両陛下『おことば』の御真意を推し測る（かんせいPLAZA／H27―６）
⑦吉田松陰と垂井出身の長原武（『ぎふの教育』１７３／H27―６）→［45］
⑥橋本富太郎研究員の博士論文合格の意義（『道徳科学研究センター　ニューズレター』５／H27―７）
⑥なぜ人は着る物で「よそおう」のか（『装道』盛夏号／H27―７）
③昭和二十年八月の御聖断と玉音放送（かんせいPLAZA／H27―７）
③戦後七十年……天皇陛下ペリリュー島慰霊の旅（『深層news★book』中央公論新社／H27―７）
Ⓚ［36］『松陰から妹達への遺訓』（勉誠出版／H27―８）
④大正京都大礼百年記念展覧会に向けて（かんせいPLAZA／H27―８）
③大正天皇御製の漢詩拝読（摂楠流文化講演会冊子／H27―８）
③二十余年の帝王教育（歴史REAL別冊『昭和天皇』、洋泉社MOOK／H27―８）
⑤ジャングルで遭遇した父の飯盒（『歴史通』９／H27―９）
⑦吉田松陰と熊本志士の宮部鼎蔵たち（かんせいPLAZA／H27―９）→［45］
⑦松陰先生ゆかりの熊本・萩と正松神社を訪ねて（かんせいPLAZA／H27―９）→［45］
⑦小田原で二宮金次郎について学ぶ（かんせいPLAZA／H27―９）→［45］
⑦岐阜谷汲育樹祭奉祝・皇太子殿下行啓奉迎に向けて（かんせいPLAZA／H27―９）
④「大正（京都）大礼百年記念展覧会」の実現に向けて（『装道』秋号／H27―10）
③真心を寄せ続ける両陛下（ＮＨＫ出版編刊『天皇・皇后両陛下―祈りの旅路』／H27―10）
④大正（京都）大礼の歴史的意義／参考資料：①「登極令」同行式　②宮内庁編『大正天皇実録』大礼関係記事抄　③『大正大礼記録』原本の成立経緯　④近現代の大礼関係略年表　⑤大正大礼の関係文献目録抄（『藝林』64―２／H27―10）
③全国育樹祭に行啓される皇太子殿下の大切なお務め（『ぎふの教育』１７４／H27―10）
⑤上賀茂神社の式年遷宮と靖国神社の例大祭（かんせいPLAZA／H27―10）
⑦欧米人も感動した吉田松陰の至誠（真心）（『藝林』64―２／H27―10）
⑥ソロモンの恩人と大垣北高の友人との出会い（かんせいPLAZA／H27―11）→［45］
⑥出雲の古事記セミナーと京都のシニア大学（かんせいPLAZA／H27―11）
⑦飛騨高山の現代国民講座と和歌山の「大切なことを学ぶ会」（かんせいPLAZA／H27―11）
⑥京都産業大学の創立五十周年記念式典と前後の出来事（かんせいPLAZA／H27―12）
⑦横浜に貢献した岐阜の原三渓と野村洋三（かんせいPLAZA／H27―12）
①古代ヤマト国家の形成過程論（『モラロジー研究』76／H27―12）

⑥徳育の要は指導者の率先垂範にあり（『モラロジー教育』141／H27—12）
⑤相模国の一宮・二宮・三宮めぐり（かんせいPLAZA／H27—12）
⑥師走の東奔西走あれこれ（かんせいPLAZA／H27—12）
④大喪の礼――正確な記録を残す必要（『読売新聞』／H27—12—19）

平成28年（2016）75歳

⑥京都は今も「ミヤコ」と言えるのか（『京都新聞』特集「日本人の忘れもの」／H28—元日）
⑥東京O・Pブーケには何がふさわしいか（『装道』新春号／H28—1）
③週刊文春の“宮中スクープ”と宮内庁の“厳重抗議”（かんせいPLAZA／H28—1）
⑦中西重忠さんの文化勲章を間近に拝見して（かんせいPLAZA／H28—1）
⑤年頭の御挨拶（『やすくに』1月号／H28—1）
①「建国記念の日」制定五十年と神武天皇の建国伝承（『日本』66—2／H28—2）
⑧『皇室に学ぶ日本人の底力』（皇学館高校創立50周年記念講演冊子／H28—2）
⑥モラロジー有志企画の集会における講話（かんせいPLAZA／H28—3）
③皇室の永続可能な典範改正への具体案（かんせいPLAZA／H28—3）
⑦大垣出身の岡田朝太郎博士に学ぶ（かんせいPLAZA／H28—3）
④大学の式典にも国旗・国歌は必要（『京都新聞』／H28—3—2）
⑦牧野英一博士に学ぶ“家族尊重”の法思想（『ぎふの教育』176・177／H28—3・5）
④サミット構成国の国号と国旗・国歌（『装道』春号／H28—4）
⑤神武天皇の御陵と宮中における式年祭（かんせいPLAZA／H28—4）
⑤伊勢志摩サミット首脳の「神宮訪問」所感（かんせいPLAZA／H28—6）→[45]
⑤「とこわか」の語義と類例（『地球システム倫理学会ニューズレター』7／H28—6）
③皇太子さまに諫言する加地・西尾両氏への疑問（『WiLL』7／H28—7）
①崇神天皇が天照大神を遷祀された史的意義（『大美和』131／H28—7）
⑥新聞も雑誌も「コラム」から―『瑞垣』に寄せて―（かんせいPLAZA／H28—7）→[45]
③今上陛下「生前退位のご意向」報道に因んで（かんせいPLAZA／H28—7）
③天皇陛下“生前退位”のご意向と実現への展望（nippon.com／H28—8）
③天皇陛下　生前退位を示唆／国民生活への影響ご配慮（『読売新聞』／H28—8—9）
③今上天皇の「お言葉」と「高齢ご譲位」の意義（かんせいPLAZA／H28—8）
③退位の思いにじむ天皇陛下の「お言葉」を読み解く（nippon.com／H28—9）
③象徴天皇の体現される“お務め”（『天皇・皇室の将来』洋泉社MOOK／H28—9）
⑤伊勢の「大神宮」表記あれこれ（『瑞垣』235／H28—9）→[45]
③天皇陛下、高齢譲位のご意向から学ぶこと（『装道』10／H28—10）
③譲位は単行特別法で対処可能（『中外日報』／H28—10）
③天皇陛下が問題提起された「高齢譲位」（『別冊宝島　天皇と皇室典範』、宝島社／H28—10）
⑤佐藤行雄さんとの出会いにより確認できたこと（かんせいPLAZA／H28—11）→[45]
③象徴天皇“高齢譲位”の必要性と法整備（有識者会議11月7日ヒアリングの要旨、首相官邸HP、
／議事録増補　11月17日／かんせいPLAZA／H28—11）
⑥松陰神社の崇敬会設立総会から有識者会議ヒアリングまで（かんせいPLAZA／H28—11）
⑥福岡モラロジー講演会から対馬一周旅行まで（かんせいPLAZA／H28—11）

⑥元気な後期高齢者の生き甲斐（かんせいPLAZA／H28—12）

平成29年（２０１７）76歳

［5］『象徴天皇「高齢譲位」の真相』（ベスト新書／H29—1）

［47］『普及版　日本年号史大事典』（雄山閣／H29—1）

⑨大島幸雄氏著『平安後期散逸日記の研究』大島幸雄氏の力作完成を寿ぐ（岩田書院／H29—1）

⑧新春対談（装道礼法きもの学院　山中典士との対談）（『装道新聞』591／H29—1）

③今上陛下の体現された「象徴天皇」（『装道』新春号／H29—1）

③現行法の定める「摂政」「臨時代行」の役割と限界（かんせいPLAZA／H29—1）

⑥第三十回「SYD沖縄遺骨収集ボランティア」に参加して（かんせいPLAZA／H29—1）→［45］

③陛下のご意思は〝高齢譲位〟による順調な世代継承（『伝統と革新』25／H29—1）

③皇室典範の草案審議と改正試案―象徴天皇〝高齢譲位〟問題を中心として―（『産大法学』50—1・2合併号、京都産業大学法学会五十周年記念論集／H29—2）

③女性皇族のご活躍と皇室の明るい将来（『SAPIO』2／H29—2）

③皇室典範の改正試案〈最新版〉（かんせいPLAZA／H29—2）

③〝皇族女子〟の過去・現在・未来（『別冊宝島2540　成年皇族のご足跡』／H29—2）

③私が〝高齢譲位〟という言葉にこだわる理由（産経iRONNA／H29—2）

④東山天皇御即位式屏風の左隻は霊元上皇御譲位移徙図（『皇學館大学研究開発推進センター紀要』3／H29—3）

④京都の宮廷文化と双京構想の歴史的意義（双京構想推進検討会議『京都の宮廷文化と双京構想の歴史的意義』／H29—3）

③戦後の皇室典範に関する主な動向（かんせいPLAZA／H29—3）

③象徴天皇『高齢譲位』の必要性と法整備（日本綿業倶楽部『月報』3／H29—3）

③光格天皇の譲位式と『桜町殿行幸図』（『藝林』65—1／H29—4）→［11］

③維新のさきがけ―光格天皇の御事績―（『モラロジー研究所所報』／H29—4）

③戦国時代の天皇による御写経の大御心（『装道』春号／H29—4）

③譲位後の天皇は「上皇」、皇后は「太后」の論拠（かんせいPLAZA／H29—4）

③皇嗣は称号に非ず、歴史的には「皇太弟」（かんせいPLAZA／H29—4）

④今上陛下の退位＝譲位は当然「国の儀式」として（かんせいPLAZA／H29—4）

③譲位最終報告―道筋つけたこと評価（『産経新聞』／H29—4—22）

③光格天皇の「寛政新造内裏還幸行列絵図」（『モラロジー研究』79／H29—5）→［11］

③朝廷の威力―仁孝・孝明両天皇の御事績（『モラロジー研究所所報』／H29—5）

③皇太子殿下のお言葉と後奈良天皇の御軫念（『モラロジー研究所所報』5／H29—5）

③四国に還幸された土御門上皇の遺蹟歴訪（『月刊朝礼』5／H29—5）→［45］

③ご叡慮「高齢譲位」の望ましい在り方（『神社新報』／H29—5—22）

③皇室永続の可能性を拡大する具体策（かんせいPLAZA／H29—5）

⑧眞子さま降嫁で皇族が消滅する日（保阪正康・岩井克己氏と鼎談）（『文藝春秋』／H29—7）

③復古と革新―若き天子により明示された国是（『モラロジー研究所所報』／H29—6）

⑥積善の家を造るの家には必ず大慶あり（かんせいPLAZA／H29—6）

③光格天皇の「勅題・勅点」宸筆（ミカド文庫／H29—6）

⑥明治の御代に樹立された三本の柱（『モラロジー研究所報』７／Ｈ29―７）
③天皇ご譲位の来歴と意義―光格天皇と今上陛下を中心に（『モラロジー研究所所報』／Ｈ29―８）
⑨皇室研究にも活用したい『古事類苑』（『モラロジー研究所所報』８／Ｈ29―８）
③象徴天皇と高齢化社会の在り方（『弘道』125―８／Ｈ29―８）
③若いころから各地を巡り、詩歌に秀でた大正天皇（『モラロジー研究所所報』／Ｈ29―９）
⑧『象徴天皇と高齢社会の在り方を考える』（全国清々会総会特別講演冊子／Ｈ29―10）
⓷神村忠貞著　河村秀俊補『御即位次第略解』（『藝林』66―２／Ｈ29―10）→［11］
④霊元上皇宸筆『年号事』覚書（国立歴史民俗博物館・国際シンポジウム『年号と東アジアの思想と文化』／Ｈ29―10）
⓷徳島県立博物館所蔵『光格上皇修学院御幸儀仗図絵巻』（『モラロジー研究』80／Ｈ29―10）→［11］
③重患の天皇を補佐された貞明皇后と摂政皇太子（『モラロジー研究所所報』／Ｈ29―10）
③後奈良天皇による御写経の奉納奥書（『藝林』66―２／Ｈ29―10）
⑥地獄絵と蒟蒻閻魔（かんせいPLAZA／Ｈ29―10）
④画期的な明治の即位礼と大嘗祭（『近代の御大礼と宮廷文化』展覧会図録／Ｈ29―10）
⑤天神さまと私―橘宮司との対談―（『天満宮』16／Ｈ29―10）
③皇孫として皇太子として修学された裕仁親王（『モラロジー研究所所報』／Ｈ29―11）
④御譲位・御践祚から改元までの在り方（『神社新報』／Ｈ29―11―13）
④新元号はいかにして決定されるか（『文藝春秋オピニオン―2018年の論点―』／Ｈ29―11）
⑧「日本」の源流を探る―「ヤマト文化」から「日本文明」まで―（『比較文明研究』22／Ｈ29―11）
⑥炭坑節の田川を訪ねて（かんせいPLAZA／Ｈ29―11）
④皇位継承と改元の時期に関する要望（かんせいPLAZA／Ｈ29―11）
⑥若狭の古蹟めぐりと京都産大の記念講演（かんせいPLAZA／Ｈ29―11）
⓷「御誓文大意」と「御宸翰大意」（『明治聖徳記念学会紀要』54／Ｈ29―12）→［12］
③和戦の対応に苦悩された昭和天皇（『モラロジー研究所所報』／Ｈ29―12）
④皇室会議を経て皇位継承の儀式を考える（かんせいPLAZA／Ｈ29―12）
④皇位継承の法的観念と公的儀式の関係（かんせいPLAZA／Ｈ29―12）
⓺三度目、最高齢の皇居勤労奉仕メモ（かんせいPLAZA／Ｈ29―12）→［45］
⑧『さざれ石と日本文化』（さざれ石愛護の日50周年記念講演冊子／Ｈ29―12）
④「譲位」の儀式は一連に（『毎日新聞』Ｈ29―12―８）

平成30年（２０１８）77歳

③戦後の復興に挺身された「二十世紀の名君」（『モラロジー研究所所報』／Ｈ30―１）
④皇位継承に伴う儀式の在り方（かんせいPLAZA／Ｈ30―１）
⓷亨和元年の公卿勅使宮川「川原祓之図」に寄せて（『瑞垣』239／Ｈ30―１）→［11］
④皇位継承の儀式に関する管見（『ぎふの教育』１８３／Ｈ30―１）
③少年皇太子明仁親王の御覚悟と御修養（『モラロジー研究所所報』／Ｈ30―２）
④天皇の御退位・御即位による式典のあり方（首相官邸HP／Ｈ30―２）
④皇位継承の儀式に関する管見（『弘道』1112／Ｈ30―２）
Ⓚ［１］『皇位継承』増補・訂正版、高橋紘氏との共著（文春新書／Ｈ30―３）
Ⓚ［25］『元号―年号から読み解く日本史』、久禮旦雄・吉野健一両氏と共著（文春新書／Ｈ30―３）

⑧『皇位継承の歴史と廣池千九郎』共著（モラロジー研究所ブックレット／H30―4）
④年号（元号）研究の近況と最新の成果（『モラロジー研究所所報』4／H30―4）
④皇位継承の儀式には未成年皇族も参列必要（かんせいPLAZA／H30―4）
⑥ミカド文庫のスタッフとプラン（『モラロジー研究所所報』／H30―5）
④元号の『法的根拠』とは何か（かんせいPLAZA／H30―5）
③『皇位継承の歴史と廣池千九郎』緊急出版（『モラロジー研究所所報』／H30―6）
⑦「寒林子」先生から「頑蘇」翁への「感想」文（『日本』68―6／H30―6）
③ご慶事を機に実現の可能な対策を（ミカド文庫／H30―7）
④新しい元号の公布と施行の日時（試案）（ミカド文庫／H30―7）
③昭和天皇の戦没者慰霊に学ぶ（ミカド文庫／H30―8）
④明治の即位式と改元の画期的意義（ミカド文庫／H30―8）
Ⓚ［13］『近代大礼関係の基本史料集成』（国書刊行会／H30―9）
④ようこそ「京都の御大礼」展へ（序文）／皇位継承に伴う儀式と祭祀の来歴／賀茂両社の勅使祭文／屏風絵に見る霊元上皇の退出行列と東山天皇の即位式／「高御座」の来歴を検証する（『京都の御大礼―即位礼・大嘗祭と宮廷文化のみやび―』特別展図録、思文閣出版／H30―9）
⑤"お米・粟づくり"のまねごと（『モラロジー研究所所報』10／H30―10）
⑧象徴天皇のお務めと高齢社会の在り方（東京岐阜県人会『ｇｉｆｕｎｅｔ』68／H30―10）
※『歴史研究』喜寿余話1～6（H30―6～H30―12）→［45］
　1母の想い出　父の面影　／　2小中高大の親友・学友　／　3人生・学問の恩師たち　／　4大学に勤めて半世紀余の幸せ　／　5「連れ合い」との五十年　／　6定年後の七年近い歩み
※『歴史研究』巻頭随想「いま伝えたいこと」（連載1～11）（H30―10～R元―12）→［45］
　1花開く「京都の御大礼」特別展覧会　／　2「平成」の意義と新元号への期待　／　3みんなで歌う母校の校歌　／　4高尚な「道楽」の歴史研究　／　5「平成」宮中歌会始カレンダーの試み　／　6御在位三十年記念式典の「おことば」　／　7元号考案者目加田誠博士の郷里墓参　／　8近現代のユキ・スキゆかりサミット　／　9大礼記念に『光格天皇関係絵図集成』　／　10ふるさと揖斐川町の可能性　／　11天武天皇朝「新嘗斎忌」ゆかりの神社
④一年後の「大嘗祭」が持つ「公的性格」（『モラロジー研究所所報』11／H30―11）
⑤日吉大社の歴史に見る日本文化の特性（『日吉大社史年表』H30―11）
Ⓚ［12］『「五箇条の御誓文」関係資料集成』（原書房／H30―12）
⑧シンポジウム　日本の皇室を考える（『弘道』1117／H30―12）

平成31年（2019）78歳
③羽毛田信吾元宮内庁長官との対談（『モラロジー研究所所報』／H31―1）
④御代替りの儀式・祭祀・改元（『椿の宮』45／H31―1）
④「元号法」に忠実な新元号の公布を切望する（ミカド文庫／H31―1）
④「元号法」に基づく新元号の公布を（『神社新報』／H31―1―14）
③今上陛下「高齢譲位」の意義（TJMOOK『天皇陛下と美智子さま』／H31―1）
③皇位世襲の永続可能な典範改正（『世界と日本』／H31―1）
④皇位継承に伴う儀式と祭祀（『あゝ楠公さん』11／H31―1）
③皇位の世襲は可能か―典範改正の合意形成に向けて―（『ぎふの教育』187／H31―1）

③「平成」宮中歌会始カレンダーの試み（『歴史研究』１・２月新春合併号／Ｈ31―2）

⑦田中卓先生に学んで六十年（『田中卓先生を偲ぶ』文集／Ｈ31―2／『日本』69―2／Ｈ31―2）

③昭和天皇の御製「直筆草稿」の新発見（『モラロジー研究所所報』／Ｈ31―3）

③昭和天皇の大御歌に学ぶ（『モラロジー研究所所報』／Ｈ31―4）

③天皇陛下ご在位30年記念式典の「おことば」（『モラロジー研究所所報』４／Ｈ31―4）

③平成の御製・御歌を日本人の生きる手本に（『れいろう』４／Ｈ31―4）

④新元号「令和」―西暦と共存　文化の知恵（『読売新聞』／Ｈ31―4―2）

④新時代へ向け西暦と両立を（『沖縄八重山新報』／Ｈ31―4）

⑥幕末維新から平成、そして未来へ―近現代史と皇室を考える―（産経WEB「彰往考来―新時代のヒストリア―」）７回連載、４月２日～８日／Ｈ31―4）

④新元号「令和」想定外ながら感服（産経新聞iRONNA／Ｈ31―4）

令和元年（２０１９）78歳

Ⓚ［19］『昭和天皇の大御歌　一首に込められた深き想い』（角川書店／Ｒ元―5）

Ⓚ［51］『皇室事典　制度と歴史』・『皇室事典　文化と生活』（角川ソフィア文庫／Ｒ元―5）

Ⓚ［26］『元号読本』（久禮旦雄・吉野健一両氏との共著、創元社／Ｒ元―5）

④「令和」は新時代の理想に相応しい（『ぎふの教育』１８９／Ｒ元―5）

④新元号「令和」誕生の画期的意義（『日本』69―6／Ｒ元―6）

⑧御代替わりと日本人の在り方（一燈園『光』１１７９／Ｒ元―7）

④令和の即位礼と大嘗祭（『伝統と革新』33／Ｒ元―9）

③光格天皇の経歴と事績（『藝林』68―2／Ｒ元―10）→［11］

④儀式は持続と変化の象徴（『日本経済新聞』／Ｒ元―10―19）

④「令和」改元の画期的な意義（『悠久』１５９／Ｒ元―10）

④麗しい和の精神を世界のモデルに（『令和の天皇陛下と雅子さま』メディアックス／Ｒ元―11）

Ⓚ［46］共編『皇室事典・令和版』「令和版」刊行のことば（角川書店／Ｒ元―11）

令和２年（２０２０）79歳

⑥令和元年「大礼」の秋「日本学賞」を拝受（『月刊朝礼』１／Ｒ２―1）→［45］

⑤天皇は男女を超えた高貴な祭り主（『世界と日本』２１６４／Ｒ２―1―6）

③還暦を迎えて耀く今上陛下の歩み（『月刊朝礼』２／Ｒ２―2）→［45］

⑥千三百年前に撰上の『日本書紀』に感謝（『月刊朝礼』３／Ｒ２―3）→［45］

⑥令和の新時代に『美濃浪人』所郁太郎から何を学ぶか（『嚶鳴フォーラム in 大野』冊子／Ｒ２―3）

⑧「令和」の理想と課題―誰もが出来る取り組みたいこと―（実践経営者道場『大和』／Ｒ２―3）

Ⓚ［11］『光格天皇関係絵図集成』（国書刊行会／Ｒ２―3）

⑧令和の即位礼と大新嘗祭―高御座と米粟に見る日本の伝統文化（『モラロジー研究』84／Ｒ２―4）

Ⓚ［45］『日本学ひろば88話』（コミニケ出版／Ｒ２―5）

①『日本（書）紀』奏上から千三百年（『歴史研究』４／Ｒ２―4）

③危機に立つ皇位継承者へのご訓誡（『月刊朝礼』４／Ｒ２―4）

③嵯峨天皇以来の御写経に学ぶ（『歴史研究』５／Ｒ２―5）

⑥六十年前の安保騒動と国防の在り方（『月刊朝礼』５／Ｒ２―5）

③皇室永続の問題点と改正案（『伝統と革新』35／Ｒ２―５）

⑤賀茂の葵祭と臨時祭の盛衰と復興に学ぶ（賀茂御祖神社『葵祭』／Ｒ２―５）

③皇室永続に必要な合意形成（『神社新報』Ｒ２―５―25）

B　未刊論考の分類目録（内容別）

①『古代国家成立史論考』

〈建国史論〉

①日本建国史の再検証（『日本』60—２／H22—２）

①古代ヤマト国家の形成過程論（『モラロジー研究』76／H27—12）

①日本国家の成立過程と美濃の役割（『ぎふの教育』１５９／H23—10）

①纒向遺跡は崇神天皇の宮跡か（『産経新聞』文化欄／H21—12—31）

①崇神天皇が天照大神を遷祀された史的意義（『大美和』131／H28—７）

①『古事記』の崩年干支と『日本書紀』の紀年法（『藝林』62—１／H25—４）

①『日本（書）紀』奏上から千三百年（『歴史研究』４／R２—４）

①日本武尊と大和朝廷の成立（『しらとり』10月号／H８—10）

①倭建命喪葬の誄歌（別冊歴史読本『「古事記」「日本書紀」総覧』／H元—６）

①葛城カモと山背カモの関係（『京都産業大学日本文化研究所紀要』９／H16—３）

①古代女帝の適法性と徳治の検証（『モラロジー研究』72／H26—３）

①現代における神功皇后観（論文集『神功皇后』（皇學館大学出版部）／S47—５）

①ヤマト朝廷の建国過程と神武天皇即位紀元（かんせいPLAZA／H27—２）

①「建国記念の日」制定五十年と神武天皇の建国伝承（『日本』２／H28—２）

①千三百年前の『古事記』を読む（『道徳科学研究センター・ニューズレター』／H24—４）

〈国号論〉

①日本の国号（歴史百科『日本地名事典』（新人物往来社）／S54—５）

①「日本」という国号の生い立ち（『あうろーら』19／H12—11）

①「日本」国号の成立経緯（『京都産業大学日本文化研究所紀要』６／H13—３）

〈史料論〉

①神宮文庫蔵『漢委奴国王金印考』（『皇學館論叢』３—５／S45—10）

①上田秋成と藤貞幹の金印考（『皇學館論叢』４—４／S46—８）

①美濃ゆかりの神々（『伊奈波だより』正月号／H23—１）

②『平安政治文化史論考』

〈法制史論〉

②結階法の解説書と計算式（『史学雑誌』80―2／S46―2）

②意見封進制度の成立（『皇學館論叢』1―2／S43―4）

②律令時代における意見封進制度の実態（『延喜天暦時代の研究』（吉川弘文館）／S44―4）

②太政大臣・摂政・関白（『日本』3・4・5／H13―3・4・5）

②国衙“官長”の概念と実態（『日本歴史』264／S45―5）

〈政治史論〉

②平安京の基礎知識（『歴史研究』397／H6―6）

②方位から見る平安遷都（『歴史街道』／H6―10?）

②「桓武天皇と平安遷都」「宇多天皇と関白抗争」「一条天皇と道長の栄華」「親政から摂関・院政へ」「皇位継承略系図」（以上、歴史群像シリーズ69『歴代天皇全史』学習研究社／H15―5）

②『令義解』撰者伝（『史正』10〈日本古代・中世史論集〉／S55―10）

②平安時代にも各地で激発した大地震（『WiLL』6／H23―6）

②菅原道真の地震論と『類聚国史』の地震記事（『藝林』60―2／H23―10）

②阿衡紛議と菅原道真（和漢比較文学会編『菅原道真論集』勉誠出版／H16―2）

②三善清行の革命思想（『神道史研究』17―2／S44―3）

②三善清行伝の補訂（『藝林』22―5／S46―10）

②菅原道真と紀長谷雄の関係（『古事類苑月報』25／S44―4）

②道真と時平・延喜の治の実態（日本の歴史4『平安貴族』（研秀出版）／S48―6）

②『三代御記』の逸文に見る菅原道真（『國書・逸文の研究』臨川書店／H13―12）

②“延喜の治”の再検討（『皇學館大学紀要』6／S43―2）

②“延喜の治”の推進力（高原美忠先生喜寿記念会編『皇學論集』皇學館大學出版部／S44―10）

②平安時代後期における延喜時代観（『古代学』14―2／S43―1）

〈文化史論〉

②日本の宮廷における唐風儀式の成立（『産大法学』28―3・4／H7―2）

②平安文化人の国際性・素描（京都産業大学日本文化研究所報『あふひ』5／H11―9）

②王朝人の住吉参詣（『すみのえ』162／S56―10）

②斎王発遣次第の成立（『古代文化』30―2／H11―2）

②伝教大師号の成立事情（天台学会編『伝教大師研究』（早稲田大学出版部）／S48―6）

②平安時代の菅家と江家（『皇學館大学紀要』13／S50―1）

②王朝時代の相撲節（別冊歴史読本『日本「相撲史」総覧』新人物往来社／H4―8）

②王朝の進展（『名画に見る國史の歩み』近代出版社／H12―4）

②平安貴族の日常心得（別冊歴史読本『日本のしきたり・礼法事典』新人物往来社／H5―6）

〈史料論〉

②公事書所引“律令”索引（『律令研究資料』4／S48―3）

②弘仁格式の成立（『歴史教育』18―８／Ｓ45―７）
②『延喜格』の編纂と三善清行（『古代文化』22―９／Ｓ45―９）
②『恒貞親王伝』撰者考（『皇學館論叢』２―１／Ｓ44―２）
②『円珍和尚伝』の素材と構成（『仏教史学』14―３／Ｓ44―５）
②『藤原保則伝』の基礎的考察（『藝林』21―３／Ｓ45―６）
②菅原道真『菅家後集』（『日本』33―２／Ｓ57―２）
②「歴代天皇の御記」・「宇多天皇御記」（別冊歴史読本『日本歴史「古記録総覧」』上／Ｈ元―11）
②「日記の部類記」・「日記と編纂物」（山中裕編『古記録と日記』下巻、思文閣出版／Ｈ５―１）
②「太后御記（校異・参考・覚書）」（『國書逸文研究』創刊号／Ｓ53―８）
②「延喜・天暦御記」（一条紹介）（『國書逸文研究』13／Ｓ59―６）
②『三代御記逸文集成』補訂（『國書逸文研究』20／Ｓ62―12）
②「諸道勘文（補遺）」（『國書逸文研究』17／Ｓ61―６）
②『西宮記』と『雑類略説』の関係（『史料』１８８／Ｈ15―12）
②『撰集秘記』現存写本略解（『藝林』27―１／Ｓ51―４）→［28］
②「禁秘記抄（覚書）」（『國書逸文研究』28／Ｈ７―12）
②順徳天皇と『禁秘抄』（『モラロジー社会教育資料』１１８／Ｈ３―９）
②順徳天皇の著作に学ぶ（『順徳天皇を仰ぐ』新人物往来社／Ｈ５―３）
②「禁秘抄」（『歴史と旅』臨時増刊『日本の歴史書１２０選』秋田書店／Ｈ５―７）
②後醍醐天皇の御著作に学ぶ（『日本』54―９／Ｈ16―９）
②「帝王編年記（『歴史読本』20―９〈歴史の名著一〇〇〉／Ｓ50―７）
②続類従未収本『三善氏系図』考（『塙保己一記念論文集』（温故学会）／Ｓ46―３）

③『皇室歴代・法制史論考』

〈歴代天皇論〉

③皇室の歴史（『BAN』正月号／H17―１）
③天皇の称号（別冊歴史読本『歴代天皇１２３代』新人物往来社／S52―２）
③歴代天皇伝（歴史百科『日本人物事典』（新人物往来社）／S53―５）
③『歴代御伝』の構想と稿本（覚書）（『國書逸文研究』10／S58―２）
③『本朝皇胤紹運録』と現行の御歴代数（『土車』１１５／H19―10）
③『天皇・皇族実録』の成立過程（『産大法学』40―１／H18―７）
③『歴代天皇　知れば知るほど』序文（実業之日本社／H18―４）（じっぴ新書／H26―12）
③『皇位継承の歴史と廣池千九郎』緊急出版（『モラロジー研究所所報』／H30―６）
③passato e presente del TENNO（伊 Lims mistero giappone／H19―５）
③Chikuro Hiroike﹑s Concept of Supreme Morality and the “ Unbroken Line of Succession of the Imperial House of Japan„（『モラロジー研究』70／H25―２）
③上代“女帝”のマツリゴト（『神道史研究』53―２／H17―10）
③危機に立つ皇位継承者へのご訓誡（『月刊朝礼』４／R２―４）
③嵯峨天皇以来の御写経に学ぶ（『歴史研究』５／R２―５）
③順徳天皇に関する基礎知識（『歴史研究』３７８／H４―11）
③皇太子殿下のお言葉と後奈良天皇の御軫念（『モラロジー研究所所報』５／H29―５）
③後奈良天皇による御写経の奉納奥書（『藝林』66―２／H29―10）
③戦国時代の天皇による御写経の大御心（『装道』春号／H29―４）
③後桜町女帝の政事・歌道に関する覚書―公事関係『実録』抄／歌道伝授関係記事抄―（『京都産業大学日本文化研究所紀要』17／H24―３）
③後桜町女帝の書写伝授された『仮名論語』（『京都産業大学日本文化研究所紀要』19／H26―３）
③近世女帝のマツリゴトに関する『天皇実録』抄（『京都産大日本文化研究所紀要』11／H18―３）
③光格天皇の「勅題・勅点」宸筆（ミカド文庫／H29―６）
③天皇ご譲位の来歴と意義―光格天皇と今上陛下を中心に（『モラロジー研究所所報』／H29―８）
③維新のさきがけ―光格天皇の御事績―（『モラロジー研究所所報』／H29―４）
③朝廷の威力―仁孝・孝明両天皇の御事績（『モラロジー研究所所報』／H29―５）
③明治天皇の一日（『歴史読本』12月特集号／S52―12）
③復古と革新―若き天子により明示された国是（『モラロジー研究所所報』／H29―６）
③大正天皇御製の漢詩拝読（摂楠流文化講演会冊子／H27―８）
③若いころから各地を巡り、詩歌に秀でた大正天皇（『モラロジー研究所所報』／H29―９）
③重患の天皇を補佐された貞明皇后と摂政皇太子（『モラロジー研究所所報』／H29―10）

〈昭和天皇論〉

③智仁勇の御徳（『ぎふの教育』84／S62―１）
③三代受け継がれる“徳”の心（『皇室の二十世紀』19　小学館／H22―10）
③宮内庁編『昭和天皇実録』（全60巻、１万2000頁）への談話、コメント（H26―４）
１「若き帝　修養の日々乃木への敬慕」（『毎日新聞』H26―９―９朝刊）

2「摂政時代の様子も詳述」（『京都新聞』H26—9—9）
3「養育担当（民権運動関与の桑野鋭）にも焦点」（『毎日新聞』H26—9—9夕刊）
4「昭和天皇、性格培われた時期詳述」（『読売新聞』H26—9—10）
5「昭和天皇　五つの逸話」（『週刊文春』H26—9—18）
6「博物博士」になりたい　歴史・生物学への関心」（『朝日新聞』H26—9—18）
7「率先して困難に立ち向かう手本を示す」（『朝日新聞』H26—9—19）
8「「裕仁イソップ」創作　宮中のクリスマスと遊び」（『朝日新聞』H26—9—20）
③『昭和天皇実録』1万2000ページを読み解く（『SAPIO』／H26—10）
③『昭和天皇実録』の大御歌（『藝林』63—2／H26—10）
③『昭和天皇実録』を読み解く⑤—天皇の多様な帝王教育（『週刊朝日』／H26—10—24）
③皇孫として皇太子として修学された裕仁親王（『モラロジー研究所所報』／H29—11）
③昭和天皇の学ばれた帝王学（前篇）（『伝統と革新』18／H27—2）
③歴史好きの少年皇太子と白鳥御用掛（白鳥庫吉著『(昭和天皇の教科書）国史』全五巻縮写本　解説・補論、勉誠出版／H27—4）
③和戦の対応に苦悩された昭和天皇（『モラロジー研究所所報』／H29—12）
③昭和二十年八月の御聖断と玉音放送（かんせいPLAZA／H27—7）
③戦後の復興に挺身された「二十世紀の名君」（『モラロジー研究所所報』／H30—1）
③昭和天皇の戦没者慰霊に学ぶ（ミカド文庫／H30—8）
③『昭和天皇実録』大御歌に見る大御心（『装道』晩秋号／H26—11）
③昭和天皇の御製「直筆草稿」の新発見（『モラロジー研究所所報』／H31—3）
③昭和天皇の大御歌に学ぶ（『モラロジー研究所所報』／H31—4）
③『初心者にもわかる　昭和天皇』監序（メディアックス／H25—7）

〈平成の天皇論〉

③昭和20年8月15日、少年皇太子の御決意（『藝林』58—2／H21—10）
③今上陛下と『論語』（『楠の生いたち』54／H22—3）
③少年皇太子明仁親王の御覚悟と御修養（『モラロジー研究所所報』／H30—2）
③今上陛下の古稀奉祝（『日本の息吹』12月号）（『日本』53—12／H15—12）
③新しい皇室像のスタート（『理想世界』正月号／H18—1）
③貴重な皇室平成7年の歩み『BAN』正月号／H18—1）
③新しい皇室像への期待（『楠の生いたち』50／H18—3）
③今上陛下の直系御永続に光明（『BAN』正月号／H19—1）
③皇室—御即位二十年目の展望（『BAN』正月号／H20—1）
③“お言葉”に見る今上陛下の歩み（『歴史読本』54—12／H21—12）
③天皇陛下はなぜお忙しいか（『モラロジー研究所所報』／H22—3）
③全国育樹祭に行啓される皇太子殿下の大切なお務め（『ぎふの教育』174／H27—10）
③今上陛下の戦没者慰霊に学ぶ（『日本』60—7・8、日本学協会／H22—7・8）→[10]
③天皇皇后両陛下のパラオ慰霊行幸啓（かんせいPLAZA／H27—4）
③両陛下『おことば』の御真意を推し測る（かんせいPLAZA／H27—6）
③戦後七十年……天皇陛下ペリリュー島慰霊の旅（『深層news★book』中央公論新社／H27—7）

③真心を寄せ続ける両陛下（ＮＨＫ出版編刊『天皇・皇后両陛下―祈りの旅路』／Ｈ27―10）
③今上陛下「生前退位のご意向」報道に因んで（かんせい PLAZA／Ｈ28―7）
③天皇陛下“生前退位”のご意向と実現への展望（nipppn.com／Ｈ28―8）
③天皇陛下　生前退位を示唆／国民生活への影響ご配慮（『読売新聞』／Ｈ28―8―9）
③今上天皇の「お言葉」と「高齢ご譲位」の意義（かんせい PLAZA／Ｈ28―8）
③退位の思いにじむ天皇陛下の「お言葉」を読み解く（nipppn.com／Ｈ28―9）
③天皇陛下、高齢譲位のご意向から学ぶこと（『装道』10／Ｈ28―10）
③象徴天皇の体現される“お務め”（『天皇・皇室の将来』洋泉社 MOOK／Ｈ28―9）
③今上陛下の体現された「象徴天皇」（『装道』新春号／Ｈ29―1）
③両陛下こそ日本人の心の拠り所（『WiLL』7／Ｈ23―7）→〔10〕
③大震災に即応された皇室に学ぶ（『BAN』正月号／Ｈ24―1）
③皇太子殿下御成婚20周年を迎えて（『日本』6月号／Ｈ25―6）
③二十余年の帝王教育（歴史 REAL 別冊『昭和天皇』、洋泉社 MOOK／Ｈ27―8）
③象徴天皇と高齢化社会の在り方（『弘道』125―8／Ｈ29―8）
③「平成」宮中歌会始カレンダーの試み（『歴史研究』1・2月新春合併号／Ｈ31―2）
③平成の御製・御歌を日本人の生きる手本に（『れいろう』4／Ｈ31―4）
③天皇陛下ご在位30年記念式典の「おことば」（『モラロジー研究所所報』4／Ｈ31―4）

〈法制関連論〉

③聖徳太子憲法と現代（『産経新聞』／Ｈ17―1―22）
③聖徳太子憲法関係研究文献目録（稿）（『産大法学』40―3・4／Ｈ19―3）
③「皇室典範」の問題点（『日本』20―5／Ｓ45―5）
③日本よ汝は立憲君主国（『すみのえ』85／Ｓ46―1）
③天皇は君主か否か（『神社新報』／Ｓ51―1―5）
③日本は立憲君主国といふ真実の再認識（『神社新報』Ｈ11―8―30）
③天皇の存在―日本国の元首、国民統合の象徴―（『京都新聞』など／Ｈ25―4―29）
③日本の皇位継承（『比較法史研究』2／Ｈ5―2）→〔9〕
③皇位の危機と「戦後」のディレンマ（『本の話』増刊号　文藝春秋／Ｈ10―10）
③「皇位は世襲」の皇室永続に向けて（『日本』64―8／Ｈ26―8）
③日本国憲法『天皇』章の改正試案（かんせい PLAZA／Ｈ25―5）
③日本の君主制（『ぎふの教育』／Ｓ61―1?）
③象徴天皇は何故お忙しいか～御公務の内容と意義（『ぎふの教育』160／Ｈ24―3）
③皇室永続、多様な工夫で（『毎日新聞』／Ｈ17―1―24）
③有資格者を増やし安定継承を（『京都新聞』／Ｈ17―2―2）
③皇位の男系継承史と女帝容認論の検証（『歴史読本』5／Ｈ17―5）→〔3〕
③皇位継承の在り方に関する管見（『産大法学』39―2／Ｈ17―9）→〔3〕
③皇室典範の改正論議は皇室会議で（読売ウィークリー増刊『悠仁さま』／Ｈ18―10―7）
③皇室制度の建て直し案（『学士会々報』872／Ｈ20―8）
③皇室制度の来歴と永続の努力（『Voice』／Ｈ25―3）
③皇室の永続に多様な英知活用が必要（『産経新聞』／Ｈ26―11―26）

③皇室の永続可能な典範改正への具体案（かんせいPLAZA／H28―3）
③皇室永続の可能性を拡大する具体策（かんせいPLAZA／H29―5）
③皇室制度に関する有識者ヒアリング（第六回）記録（『モラロジー研究』70／H25―2）
③皇太子さまに諫言する加地・西尾両氏への疑問（『WiLL』7／H28―7）
③皇室永続の問題点と改正案（『伝統と革新』35／R2―5）
③皇室永続に必要な合意形成（『神社新報』R2―5―25）
③譲位は単行特別法で対処可能（『中外日報』／H28―10）
③天皇陛下が問題提起された「高齢譲位」（『別冊宝島　天皇と皇室典範』、宝島社／H28―10）
③ご慶事を機に実現の可能な対策を（ミカド文庫／H30―7）
③象徴天皇“高齢譲位”の必要性と法整備（有識者会議11月7日ヒアリングの要旨、首相官邸HP、／議事録増補　11月17日／かんせいPLAZA／H28―11）
③現行法の定める「摂政」「臨時代行」の役割と限界（かんせいPLAZA／H29―1）
③皇室典範の草案審議と改正試案―象徴天皇〝高齢譲位〟問題を中心として―（『産大法学』50―1・2合併号、京都産業大学法学会五十周年記念論集／H29―2）
③私が〝高齢譲位〟という言葉にこだわる理由（産経iRONNA／H29―2）
③皇室典範の改正試案〈最新版〉（かんせいPLAZA／H29―2）
③戦後の皇室典範に関する主な動向（かんせいPLAZA／H29―3）
③象徴天皇『高齢譲位』の必要性と法整備（日本綿業倶楽部『月報』3／H29―3）
③「皇室典範」の問題点と改正への試論（『産大法学』45―3・4／H24―2）
③皇室の永続に何が必要か（「國民會館ウェブサイト」／H24―6）
③無責任な“皇太子殿下ご退位”勧誘論（『藝林』62―1／H25―4）
③週刊新潮の暴走記事と“水面下の動き”への厳重抗議（『日本』6月号／H25―6）
③産経特報「政府方針」への素朴な疑問（かんせいPLAZA／H26―10）
③譲位後の天皇は「上皇」、皇后は「太后」の論拠（かんせいPLAZA／H29―4）
③週刊文春の“宮中スクープ”と宮内庁の“厳重抗議”（かんせいPLAZA／H28―1）
③皇嗣は称号に非ず、歴史的には「皇太弟」（かんせいPLAZA／H29―4）
③譲位最終報告―道筋つけたこと評価（『産経新聞』／H29―4―22）
③ご叡慮「高齢譲位」の望ましい在り方（『神社新報』／H29―5―22）
③羽毛田信吾元宮内庁長官との対談（『モラロジー研究所所報』／H31―1）
③今上陛下「高齢譲位」の意義」（TJ-MOOK『天皇陛下と美智子さま』／H31―1）
③皇位世襲の永続可能な典範改正（『世界と日本』／H31―1）
③皇位の世襲は可能か―典範改正の合意形成に向けて―（『ぎふの教育』187／H31―1）
③皇族女子を当主とする宮家の設立と在り方（『日本』62―9／H24―2）
③「女性宮家案」に“違憲の疑い”は無い（『日本』62―12／H24―12）
③「女系」排除せず議論を／数十年先を見越し対応策を（『京都新聞』H24―6―16）
③宮家制度の成立と展開（『皇學館論叢』45―6／H24―10）
③資料紹介「宮内省編『桂宮実録／淑子内親王実録』綱文」（『藝林』61―2／H24―10）
③四親王家と近現代の宮家一覧（『藝林』61―1／H24―4）
③皇族の活動と離籍皇族の皇室奉賛（かんせいPLAZA／H27―3）
③女性皇族のご活躍と皇室の明るい将来（『SAPIO』2／H29―2）

③皇族女子を当主とする宮家の創設が必要（『SAPIO』／H24―2）

③「女性宮家」の創設（『読売新聞』／H23―12―29「論点」）

③〝皇族女子〞の過去・現在・未来（『別冊宝島2540　成年皇族のご足跡』／H29―2）

④『朝儀・祝祭・年号論考』

〈朝儀関係論〉

④代始諸儀の順序（『神道と現代』上巻（神道文化会）／S63—1）
④大喪の礼——正確な記録を残す必要（『読売新聞』／H27—12—19）
④古儀の即位式（『図録　即位儀礼にみる宮廷文化展』共同通信社／H2—8）
④皇位の継承儀礼（山中裕・鈴木一雄編『平安時代の儀礼と歳時』至文堂／H3—12）
④近世天皇の代始諸儀（『歴史読本』6月特集号／H11—6）
④東山天皇御即位式屏風の左隻は霊元上皇御譲位移徙図（『皇學館大学研究開発推進センター紀要』3／H29—3）
④後桜町天皇の即位式の概要（『京都産業大学本文化研究所紀要』12／H19—3）
④後桜町天皇宸記（明和元年大嘗会記事）解説（『京都産大日本文化研究所紀要』6／H13—3）
④後桜町女帝の大嘗祭と新嘗祭（『日本歴史』713　歴史手帖／H19—10）
④後桜町女帝の即位式用『宝冠』考（『京都産業大学日本文化研究所紀要』20／H27—3）
④「柳原紀光日記『愚神』抄—三写本対比—」（『京都産大日本文化研究所紀要』20／H27—3）
④高御座の伝来と絵図（『京都産業大学世界問題研究所紀要』10／H2—3）
④平（谷口）胤禄注進『高御座』勘物（『産大法学』24—1／H2—4）
④高御座とその絵画（生田神社編『即位礼と大嘗祭』国書刊行会／H2—4）
④共同研究成果報告「近世の朝廷と賀茂に関する史料の研究と活用」「近世の女帝と宮廷社会に関する研究」（若松正志氏と連名）（京産大日文研所報『あふひ』18／H25—3）
④近現代の大喪と大礼のすべて（『歴史読本』55—8　特集「皇位継承の真相」／H22—8）
④明治の即位式と改元の画期的意義（ミカド文庫／H30—8）
④画期的な明治の即位礼と大嘗祭（『近代の御大礼と宮廷文化』展覧会図録／H29—10）
④多田好問草稿『登極令義解』の紹介（『続大嘗祭の研究』皇學館大學出版部／H2—3）
④大正京都大礼百年記念展覧会に向けて（かんせいPLAZA／H27—8）
④「大正（京都）大礼百年記念展覧会」の実現に向けて（『装道』秋号／H27—10）
④大正（京都）大礼の歴史的意義／参考資料：①「登極令」同行式　②宮内庁編『大正天皇実録』大礼関係記事抄　③『大正大礼記録』原本の成立経緯　④近現代の大礼関係略年表　⑤大正大礼の関係文献目録抄（『藝林』64—2／H27—10）
④昭和の践祚式と改元（別冊歴史読本『図説・天皇の即位礼と大嘗祭』／S63—11）
④昭和天皇の御大礼と皇室祭祀（『昭和天皇記念館』図録／H17—11）
④即位礼と大嘗祭（『文藝春秋』二月特別号／H元—2）
④平成の大礼を振り返る（『日本』41—2—3／H2—2—3）
④平成の大礼を振り返る（『ぎふの教育』98／H2—12）
④即位儀礼の意義を考える（『皇室の伝統精神と即位礼・大嘗祭』広池学園出版部／H2—7）
④皇位の継承に伴う儀式の意味（別冊歴史読本『皇位継承儀式宝典』／H2—8）
④即位礼と大嘗祭（『平成時代の幕開け』新人物往来社／H2—11）
④即位礼と大嘗祭の歴史（週刊読売臨時増刊『即位の礼・全記録』／H2—11）
④平成の即位礼と大嘗祭を振り返る（『日本』41—2—3／H3—2・3）
④御譲位・御践祚から改元までの在り方（『神社新報』／H29—11—13）

④ようこそ「京都の御大礼」展へ（序文）／皇位継承に伴う儀式と祭祀の来歴／賀茂両社の勅使祭文／屏風絵に見る霊元上皇の退出行列と東山天皇の即位式／「高御座」の来歴を検証する（『京都の御大礼―即位礼・大嘗祭と宮廷文化のみやび―』特別展図録、思文閣出版／H30―9）
④象徴天皇・皇室文化の位置づけと扱い方（『ぎふの教育』１１６／Ｈ９―２）
④皇室会議を経て皇位継承の儀式を考える（かんせいPLAZA／H29―12）
④「譲位」の儀式は一連に（『毎日新聞』H29―12―8）
④皇位継承の法的観念と公的儀式の関係（かんせいPLAZA／H29―12）
④皇位継承に伴う儀式の在り方（かんせいPLAZA／H30―1）
④皇位継承の儀式に関する管見（『ぎふの教育』１８３／H30―1）
④天皇の御退位・御即位による式典のあり方（首相官邸HP／H30―2）
④皇位継承の儀式に関する管見（『弘道』1112／H30―2）
④皇位継承の儀式には未成年皇族も参列必要（かんせいPLAZA／H30―4）
④一年後の「大嘗祭」が持つ「公的性格」（『モラロジー研究所所報』11／H30―11）
④御代替りの儀式・祭祀・改元（『椿の宮』45／H31―1）
④皇位継承に伴う儀式と祭祀（『あゝ楠公さん』11／H31―1）
④令和の即位礼と大嘗祭（『伝統と革新』33／R元―9）
④儀式は持続と変化の象徴（『日本経済新聞』／R元―10―19）
④皇太子ご婚儀の歴史（『日本及日本人』1610／Ｈ５―４）
④皇太子殿下の御成婚を寿ぐ（『日本』４―５／Ｈ５―５）
④近現代の皇太子御成婚儀礼／天皇直伝の宮中御心得（別冊歴史読本『日本のしきたり・礼法事典』新人物往来社／Ｈ５―６）
④“壷切御剣”に関する御記逸文（『歴史読本』特別増刊『「日記」総覧』／Ｈ６―４）
④今上陛下の退位＝譲位は当然「国の儀式」として（かんせいPLAZA／H29―4）

〈祝祭文化論〉

④宮廷文化とその活用（『クールジャパン宮廷文化会議初年度報告書』／H26―3）
④京都は今も“ミヤコ”と言えるのか（『京都新聞』元日特集／H28―1―1）
④京都の宮廷文化と双京構想の歴史的意義（双京構想推進検討会議『京都の宮廷文化と双京構想の歴史的意義』／H29―3）
④皇室の儀礼としきたり（『一個人』6月号特集「皇室の真実」／H25―4）
④天皇の日中行事（歴史百科『日本皇室事典』新人物往来社／S54―9）
④天皇の日記と日中行事考（『皇室の百科事典』新人物往来社／S63―5）
④宮中の歌会始を陪聴して（『楠の生いたち』42／H10―3）
④宮中歌会始の御題「本」に学ぶ（『装道』陽春号／H27―3）
④宮中の祭祀に重要な雅楽（CBC特別企画、宮中雅楽公演冊子『雅』／H27―5）
④パスポートの表紙デザインは菊紋（かんせいPLAZA／H27―1）
④天皇の人生儀礼（別冊歴史読本『図説 天皇の儀礼』新人物往来社／H13―12）
④宮中の祭祀と国民の祝日（『日本教育』１７４／Ｈ２―10）（→新版／Ｈ５―４）
④象徴天皇の祭祀と公務（『BAN』正月号／H21―1）
④象徴天皇の重要な“まつりごと”（『藝林』58―1／H21―4）

④『国民の祝日』＝その由来と意義＝（『ぎふの教育』76／S59—2）
④「建国記念の日」審議会公聴会を傍聴して（『日本』16—12／S41—12）
④紀元節復活の経過と問題点（『日本』17—4／S42—4）
④年中行事を楽しむ～@（裏千家編『淡交』1月~12月連載／H19—1）
④お正月の意味（『装道』／H26—1）
④明治節と文化の日（神社シリーズ『明治神宮』新人物往来社／H4—5）
④世界の「建国記念日」要覧（『日本』58—2／H20—2）
④政府の“祝日法案改正”案を批判する（『ぎふの教育』１０８／H6—1）
④歴史の中の祝祭日（『祝祭日の意義を考える』展転社／H6—4）
④「昭和の日」を意義ある祝日に（『日本』57—4／H19—4）
④「国民の祝日」の意義を見直す（『藝林』59—1／H22—4）
④「国民の祝日」の来歴と特色（『都市問題』１０１—10　東京市政調査会／H22—10）
④国旗・国歌を考える（『文教』／H6—8?）
④日本国について考える　ゴールデン・ウィーク（『ぎふの教育』１６５／H25—5）
④“国旗・国歌法”制定の意義（『月刊自由民主』10月号／H11—10）
④歴史から見る日本の国旗と国歌（『日本』49—5／H11—5）
④『国歌“君が代”の来歴』（『君が代のすべて』（キングレコード／H12—8）
④米国ワシントンで「日の丸」を見て（『楠の生いたち』44／H12—3）
④「君が代」こそ日本の国歌に最適（『日本の息吹』140／H11—7）
④「国旗国歌法」早期成立に総力結集を（『神社新報』／H11—5—31）
④“日の丸・君が代”のもとに（明治神宮崇敬会『代々木』正月号／H16—1）
④「君が代」日本の再生に向けて（『国民会館だより』19／H23—7）
④「平成」の理想と課題（『楠の生いたち』53／H21—3）
④「国旗掲揚・国歌斉唱」励行条例の画期的意義（『日本』60—8／H23—8）
④大学の式典にも国旗・国歌は必要（『京都新聞』／H28—3—2）
④サミット構成国の国号と国旗・国歌（『装道』春号／H28—4）

〈年号関係論〉

④日本の年号と天皇（『歴史読本』20—1／S50—1）
⑧『日本の年号』（皇學館大學講演叢書34／S50—3）
④日本年号制度の成立と展開（編序）（『日本年号史大事典』雄山閣／H26—1）
④大化年号の創建と意義（神社シリーズ『談山神社』新人物往来社／H7—6）
④霊元上皇宸筆『年号事』覚書（国立歴史民俗博物館・国際シンポジウム『年号と東アジアの思想と文化』／H29—10）
④柳原紀光日記「明和」改元記事（『藝林』64—1／H27—4）
④“慶應”年号の成立過程（『慶應義塾大學法律学科開設百年記念論文集』慶應通信／H2—10）
④明治天皇と元号（『暦文協NEWS』9／H27—4）
④一世一元の法理と実態（『日本』25—2／S50—2）
④元号法制化への歩み（『日本』第24—7号／S49—7）
④平成の元号（京都霊山顕彰会『維新の道』54／H元—7）

④年号（一世一元）の意義（『神社新報』／S49―8―5）

④年号尊重の論拠（『日本』26―3／S51―3）

④「平成」の理想と課題（『理想世界』／H21―1）

④「平成」の理想を仰ぐ（『モラロジー研究所所報』588／H21―11）

④平和達成を願う元号（隔月刊『装道』陽春号239号／H26―3）

④新元号はいかにして決定されるか（『文藝春秋オピニオン―2018年の論点―』／H29―11）

④皇位継承と改元の時期に関する要望（かんせいPLAZA／H29―11）

④年号（元号）研究の近況と最新の成果（『モラロジー研究所所報』4／H30―4）

④元号の『法的根拠』とは何か（かんせいPLAZA／H30―5）

④新しい元号の公布と施行の日時（試案）（ミカド文庫／H30―7）

④新時代へ向け西暦と両立を（『沖縄八重山新報』／H31―4）

④「元号法」に忠実な新元号の公布を切望する（ミカド文庫／H31―1）

④「元号法」に基づく新元号の公布を（『神社新報』／H31―1―14）

④新元号「令和」想定外ながら感服（産経新聞iRONNA／H31―4）

④「令和」は新時代の理想に相応しい（『ぎふの教育』189／R元―5）

④新元号「令和」―西暦と共存　文化の知恵（『読売新聞』／H31―4―2）

④新元号「令和」誕生の画期的意義（『日本』69―6／R元―6）

④「令和」改元の画期的な意義（『悠久』159／R元―10）

④麗しい和の精神を世界のモデルに（『令和の天皇陛下と雅子さま』メディアックス／R元―11）

⑤『神道文化思想史論考』

〈皇室祭祀論〉

⑤天皇は男女を超えた高貴な祭り主（『世界と日本』２１６４／R２―１―６）
⑤皇室祭祀と神宮祭祀（『宗教と現在がわかる本２００９』／H21―３）
⑤宮廷の神事と仏事（『京・御所文化への招待』 淡交社／H６―６）
⑤天皇陛下の祭祀と内廷皇族の役割（『WiLL』２月号／H26―２）
⑤神武天皇の御陵と宮中における式年祭（かんせい PLAZA／H28―４）
⑤桓武天皇の柏原山陵（『歴史研究』４００／H６―９）
⑤霊元上皇の祈願文（皇學館大學史料編纂所報『史料』90／S63―３）
⑤現御神と象徴天皇（別冊歴史読本『日本「宗教」総覧』／H８―４）
⑤今上陛下の戦没者慰霊に学ぶ（『ぎふの教育』１５４／H22―３）
⑤御大礼と神宮への親謁（『瑞垣』１５６／H２―８）
⑤天皇の祭祀の世界（『歴史人』第3号 KKベストセラーズ／H22―10）
⑤天皇陛下の御祭拝と皇族男女の拝礼『日本』８月号
⑤皇族女子の神明奉仕（『京極』３／H24―７）
⑤“お米・粟づくり”のまねごと（『モラロジー研究所所報』10／H30―10）

〈神宮関係論〉

⑤総解説 伊勢神宮（別冊歴史読本『伊勢神宮と全国「神宮」総覧』新人物往来社／H15―３）
⑤伝承伊勢斎王の再検討（皇學館大学創立百三十年記念論集『伊勢神宮と日本文化』／H24―３）
⑤斎王（斎宮・斎院）一覧（『日本史総覧』Ⅰ考古・古代１ 新人物往来社／S58―11）
⑤祭主（神宮祭主）一覧（井後政晏氏と共編）（『日本史総覧』Ⅲ中世新人物往来社／S59―３）
⑤伊勢神宮“式年遷宮”の意義（京都産業大学日本文化研究所報『あふひ』６／H12―９）
⑤“心のふるさと”伊勢の神宮（『楠の生いたち』49／H17―３）
⑤上代における式年遷宮（『神道史研究』20―５・６／S47―11）
⑤神宮奏事始と賀茂奏事始（『瑞垣』１７９／H10―２）
⑤江戸時代の「おかげまゐり」と「せぎゃう」（『ぎふの教育』１６６／H25―10）
⑤外人の見た近世の伊勢参宮（『日本』23―８／S48―８）
⑤二十年ごとに伝える日本の英知（『光の泉』54―６／H５―６）
⑤国民奉賛による式年遷宮の意義（『瑞垣』１９８／H16―６）→［39］
⑤古くて新しい伊勢の神宮（別冊歴史読本『日本「神社」総覧』新人物往来社／H８―６）
⑤“心のふるさと”伊勢神宮（『文藝春秋』特別版「和の心・日本の美」／H16―９）
⑤伊勢神宮―秘められた英知―（『産経新聞』H25―９―30）
⑤とこわか」の語義と類例（『地球システム倫理学会ニューズレター』７／H28―６）
⑤”常若”の英知―古くて新しい伊勢の神宮―（京都産業大学世界問題研究所所報『世界の窓』10／H７―11）
⑤全国植樹祭と伊勢の式年遷宮（『中日新聞』／H18―５―20）
⑤遷宮と私／食前に手を合わせる心の大切さ（『産経新聞』／H25―４）

〈神社関係論〉

⑤京都地名散策―神山（『京都新聞』８月29日／Ｈ15―８）

⑤葵祭（浜岡昇編『葵祭』京都書院／Ｈ３―10）

⑤賀茂伝説と葵（京都産業大学日本文化研究所報『あふひ』７／Ｈ13―10）

⑤『賀茂社関係古伝集成』（大間茂氏と共編『京都産大日本文化研究所紀要』６ 別冊／Ｈ13―３）

⑤元禄七年書写『賀茂祭草子』（『京都産業大学日本文化研究所紀要』16／Ｈ23―３）解説

⑤「賀茂奏事始」に関する覚書（『京都産業大学日本文化研究所紀要』２／Ｈ９―３）

⑤『賀茂注進雑記』に関する覚書（『京都産業大学日本文化研究所紀要』創刊号／Ｈ８―３）

⑤賀茂の葵祭と臨時祭の盛衰と復興に学ぶ（賀茂御祖神社『葵祭』／Ｒ２―５）

⑤賀茂大社と祭礼の来歴（日本の古社シリーズ『賀茂社』淡交社／Ｈ16―４）

⑤カモ社関係研究文献目録（稿）（松田敬之氏と共編、同右／Ｈ12―３）

⑤上賀茂神社の式年遷宮と靖国神社の例大祭（かんせい PLAZA／Ｈ27―10）

⑤“やすらい祭”の謎を解く（京都産業大学日本文化研究所報『あふひ』３／Ｈ９―９）

⑤日吉大社の歴史に見る日本文化の特性（『日吉大社大年表』Ｈ30―11）

⑤社殿と造営・朝野の崇敬・住吉と王朝文学（『住吉大社史』下、住吉大社奉賛会／S58―10）

⑤真弓常忠氏の住吉大社本殿創建論への管見（皇學館大学史料編纂所『史料』２２１／Ｈ21―６）

⑤遣唐使船への授位（『すみのえ』28―２／Ｈ３―４）

⑤「上代の真清田神社」・「近代の真清田神社」（『真清田神社史』同編纂委員会／Ｈ６―５）

⑤菅原道真と天神信仰（『皇學館大學神道研究所紀要』19／Ｈ15―３）

⑤京都における天神信仰の展開（『京都産業大学日本文化研究所紀要』７・８／Ｈ15―３）

⑤天神信仰の研究史と問題点（『神道史研究』50―３・４／Ｈ14―12）

⑤天神さまと私―橘宮司との対談―（『天満宮』16／Ｈ29―10）

⑤平安神宮の創建前史（『神道史研究』42―４、のち『現代神道研究集成』神社新報社／Ｈ６―10）

⑤楠公回天祭の来歴（『日本』54―10／Ｈ15―10）

⑤相模国の一宮・二宮・三宮めぐり（かんせい PLAZA／Ｈ27―12）

〈靖國関係論〉

⑤南北戦争・戊辰戦争と戦没者の慰霊・顕彰（『やすくに』／Ｈ25―５）

⑤靖国祭神の要件と合祀の来歴（『藝林』55―２／Ｈ18―10）

⑤「みたま祭」の来歴と意義（『やすくに』７／Ｈ19―７）

⑤靖国神社「みたま祭」の成立と発展（『明治聖徳記念学会紀要』復刊第弘号／Ｈ19―11）

⑤戦後再考―戦没者慰霊の形（『京都新聞』文化欄／Ｈ19―８―15）

⑤沖縄戦慰霊碑の真実（『日本』58―６／Ｈ20―６）

⑤“靖国問題”の貴重な資料と論集（『藝林』57―２／Ｈ20―10）

⑤“靖国参拝問題”管見（『日本』51―９／Ｈ13―９）

⑤靖国“ ”公式参拝のかたち（『VOICE』８／Ｈ15―８）

⑤戦後歴代首相の~靖国参拝総点検（『Voice』９／Ｈ17―９）

⑤“富田メモ”の読み解き方（『日本』57―６／Ｈ19―６）

⑤首相公式参拝は春秋の例大祭に（『産経新聞』／Ｈ24―８）

⑤総理と靖国神社“公式参拝”は例大祭に（『藝林』62―１／Ｈ25―４）

⑤年頭の御挨拶（『やすくに』１月号／H28―１）
⑤ソロモンの夜明け（『神社新報』／S51―７―５）
⑤「忠魂」（『日本』平泉澄博士追悼号／S60―２）
⑤ジャングルで遭遇した父の飯盒（『歴史通』９／H27―９）

⑥『日本教育文化史論考』

〈教育史論〉

⑥「古代の私学と大学別曹」・「貴族の家庭教育」（『日本教育史』仏教大学通信教育部／Ｈ元—３）
⑥菅江両家の教育活動（結城陸郎編『日本教育文化史』明玄書房／Ｓ50—２）
⑥かぐや姫と神童・公達のたどる道（日本子供史Ⅰ『夜明けの子供』第一法規出版／Ｓ52—４）
⑥近世尾三の文庫と出版（『愛知県教育史』第２巻　愛知県教育委員会／Ｓ47—９）
⑥「古代の尾三教育」「中世の尾三教育」（『愛知県教育史』Ⅰ（愛知県教育委員会）／Ｓ48—３）
⑥尾張における学神祭の釈奠（東海地域文化研究所『社会・文化・思潮』風媒社／Ｈ９—３）
⑥幕末の私塾に学ぶ—所郁太郎の場合—（『日本教育』７月号／Ｈ４—７）
⑥教育正常化への努力（『楠の生いたち』８／Ｓ38—10）
⑥教師への道（千代田化工建設懸賞論文「私の大望」／Ｓ39—10）
⑥教科書制度の実情と問題点（『時の課題』／Ｓ56—10?）
⑥“教科書騒動”の教訓（『ぎふの教育』71／Ｓ57—11）
⑥教科書制度“自由化”への道（文藝春秋『諸君!』３月号／Ｈ11—３）
⑥教育再建のために（『山紫水明』50／Ｈ14—２）
⑥高校の地歴科と教科書の在り方（『日本の教育』５４７／Ｈ18—11）
⑥高校の地歴科と教科書の在り方（『楠の生いたち』51／Ｈ19—３）
⑥「教育基本法」改正と歴史教育の改善（『日本』58—５・６／Ｈ20—５・６）
⑥天皇を敬愛する国民の育成（『弘道』１０５４／Ｈ20—６）
⑥学問・教育に熱心な皇室の方々（『BAN』正月号／Ｈ23—１）
⑥文部科学省編『私たちの道徳』を活用しよう（『ぎふの教育』１６９／Ｈ26—６）
⑥新しい教科書制度の在り方を考える（『装道』新春号／Ｈ27—１）

〈日本史論〉

⑥「歴史ブーム」雑感（『楠の生いたち』10／Ｓ40—10）
⑥日本史教科書の問題点（日本学協会『日本』15—12／Ｓ40—12）
⑥年表の歴史と楽しみ方（別冊歴史読本『日本史年表の基礎知識』／Ｈ５—12）
⑥歴史絵画の系譜をたどる（『図録「日本史」総覧』新人物往来社／Ｈ３—４）
⑥「神話から歴史へ」の道筋（『藝林』60—１／Ｈ23—４）
⑥昭和天皇の学んだ特製『国史』教科書（『文藝春秋』２月号／Ｈ２—２）
⑥清水澄博士の「法制・憲法」御進講（『憲法研究』30／Ｈ10—５）
⑥昭和天皇の教科書『教育勅語』と『日本歴史』（解説）勉誠出版／Ｈ12—10）
⑥『名画に見る日本の歩み』跋文（近代出版社／Ｈ12—４）
⑥百人一首巻頭の天智天皇御製（神社シリーズ『近江神宮』新人物往来社／Ｈ３—４）
⑥“聖徳太子”否定論は認め難い／「南北朝全体」の正確な記述を（『藝林』57—１／Ｈ20—４）
⑥菅公と学校教育（『飛梅』／Ｓ56—４?）
⑥梅と桜に萩と菊（『歴史研究』３３０／Ｓ63—10）
⑥日本史のなかの官職と位階（別冊歴史読本『日本史上の官位制度』新人物往来社／Ｈ13—４）
⑥ある維新史料の扱い方（『歴史研究』３６６／Ｈ３—11）

⑥日下部太郎とW・E・グリフィスの交流（『日本』９—９／H11—９）
⑥錦旗の誕生（『歴史読本』２月号／H10—２）
⑥錦旗の来歴・再検討（『京都産業大学日本文化研究所紀要』４／H11—３）
⑥明治維新の原動力（『日本』59—６／H21—６）
⑥昭和天皇の近代的帝王学（西尾幹二編『新地球日本史』Ⅰ扶桑社／H17—４）
⑥代表的日本人　三題（『ぎふの教育』67／S56—12）
⑥伊沢修二と唱歌教育（『日本』31—11／S56—11）
⑥文部省「福地処分」にモノ申す（『諸君!』／H11—３）
⑥宮中勤労奉仕メモ（『すみのえ』127／S49—７）
⑥京都は今も「ミヤコ」と言えるのか（『京都新聞』特集「日本人の忘れもの」／H28—元日）
⑥京都が「京都」ではなくなる!?（『京都産業大学同窓会報』25／H元—９）
⑥“家族同氏”制度の来歴と意義（比較法史学会編『あうろーら』８／H９—７）
⑥“家族同姓”の来歴を見直す（『日本』47—10／H９—11）
⑥“家族尊重”の民法と牧野英一博士（『ぎふの教育』１２０／H10—３）
⑥幕末維新から平成、そして未来へ—近現代史と皇室を考える—（産経WEB「彰往考来—新時代のヒストリア—」７回連載、４月２日～８日／H31—４）

〈徳育関係論〉

⑥新スパルタ教育論—子供は親にとって何なのか—（『ぎふの教育』23／S46—11）
⑥「教育勅語」百十年の底力『日本』50—11／H12—11）
⑥昭和天皇と教育勅語（『昭和』９／H14—９）
⑥東宮「倫理」担当杉浦重剛の「教育勅語」御進講（『明治聖徳記念学会紀要』47／H22—11）
⑥昭和天皇の学ばれた帝王教育—学習院初等学科(下)—（『伝統と革新』19／H27—５）
⑥明治の御代に樹立された三本の柱（『モラロジー研究所所報』７／H29—７）
⑥東宮御教育常時参与の小泉信三博士に学ぶ（かんせいPLAZA／H27—６）
⑥母校・祖国を担って立つ気迫（『楠の生いたち』45／H13—３）
⑥“敬愛”教育の実践（『ぎふの教育』１３０／H14—１）
⑥高校生も感奮させた鍛錬会（日本学協会千早委員会編『存道』／H15—12）
⑥“母性尊重”の長所を活かそう（『京都新聞』／H18—６—４）
⑥母性の回復が日本を救う（『白鳩』２／H16—２）
⑥日本文化の特性を感得するために（『国際文化研修』53／H18—10）
⑥京都産大の“むすびわざ”（『京都産業大学同窓会報』42／H18—10）
⑥本学学歌に見る建学の精神—自校教育講義「大学の歴史と京都産業大学」から—（『京都産業大学大学史編纂室ニュース』３／H24—４）
⑥京都産業大学の創立五十周年記念式典と前後の出来事（かんせいPLAZA／H27—12）
⑥「こどもの日」は母に感謝する日（『中日新聞』文化欄／H19—４—29）
⑥徳育の要は指導者の率先垂範にあり（『モラロジー教育』141／H27—12）
⑥モラロジー有志企画の集会における講話（かんせいＰＬＡＺＡ／H28—３）
⑥元気な後期高齢者の生き甲斐（かんせいPLAZA／H28—12）
⑥積善の家を造るの家には必ず大慶あり（かんせいPLAZA／H29—６）

〈文化関係論〉

⑥「国語問題」を考える（矢橋謝恩会『楠の生いたち』６／Ｓ36―10）

⑥年始の時期と行事・覚書（『京都産業大学世界問題研究所紀要』４／Ｓ58―３）

⑥伝えよう日本の心１～12（『れいろう』／Ｈ62―１～12）

⑥若木談話室（『神社新報』Ｓ51～Ｓ52）

１　三歳児教育の試み（Ｓ51―４―５）

２　ソロモンの夜明け（Ｓ51―７―５）

３　年号の覚え方（Ｓ52―３―７）

４　養老の水（Ｓ52―５―30）

５　美濃浪人・所郁太郎（Ｓ52―９―12）

６　気になること三題―結婚式・学校給食・３ＤＫ宿舎―（Ｓ52―11―28）

⑥暦の吉凶（『歴史街道』10月号／Ｈ４―10）

⑥Ｏ・ジェルマントマ氏の『日本待望論』に学ぶ（『楠の生いたち』43／Ｈ11―３）

⑥秋の園遊会参列の記（『伊勢青々』51／Ｈ14―12）

⑥半世紀前の大学生活（『楠の生いたち』55／Ｈ23―３）

⑥世界文化遺産の富岡製糸から学ぶこと（『装道』初秋号／Ｈ27―９）

⑥博物館で見初めた３人のミューズ（かんせい PLAZA／Ｈ25―５）

⑥講和独立直後の“戦犯”釈放署名運動（『藝林』63―１／Ｈ26―４）

⑥橋本富太郎研究員の博士論文合格の意義（『道徳科学研究センターニューズレター』／Ｈ27―７）

⑥なぜ人は着る物で「よそおう」のか（『装道』盛夏号／Ｈ27―７）

⑥出雲の古事記セミナーと京都のシニア大学（かんせい PLAZA／Ｈ27―11）

⑥師走の東奔西走あれこれ（かんせい PLAZA／Ｈ27―12）

⑥東京Ｏ・Ｐブーケには何がふさわしいか（『装道』新春号／Ｈ28―１）

⑥松陰神社の崇敬会設立総会から有識者会議ヒアリングまで（かんせい PLAZA／Ｈ28―11）

⑥地獄絵と蒟蒻閻魔（かんせい PLAZA／Ｈ29―10）

⑥炭坑節の田川を訪ねて（かんせい PLAZA／Ｈ29―11）

⑥若狭の古蹟めぐりと京都産大の記念講演（かんせい PLAZA／Ｈ29―11）

⑥六十年前の安保騒動と国防の在り方（『月刊朝礼』５／Ｒ２―５）

⑥ミカド文庫のスタッフとプラン（『モラロジー研究所所報』／Ｈ30―５）

⑦『先賢・縁者・郷土史論』

〈先賢論〉

⑦和気清麻呂公略伝（『和気公と護王神社』護王神社奉賛会／Ｓ62―11）
⑦菅原道真（別冊歴史読本『日本歴史「伝記」総覧』／Ｈ２―10）
⑦菅原道真（別冊歴史読本『日本史を変えた人物二〇〇人』／Ｈ５―９）
⑦梅と菊と菅公（全国天満宮連合会『余香集』／Ｓ63―２）
⑦菅原道真伝説（歴史読本特別増刊『日本「神話・伝説」総覧』／Ｈ４―10）
⑦“正論”を貫いた菅原道真（産経新聞社『正論』／Ｈ15―３）
⑦菅原道真公千百年祭を迎えて（『日本』52―３・４／Ｈ14―３・４）
⑦吉田松陰『講孟劄記』輪講「尽心上・第二十九章」（『日本』31―８／Ｓ56―９）
⑦「祭広木忠信文」に学ぶ（『月刊千早』91／Ｓ57―２）
⑦美濃の崎門学―廣木忠信の学風―（『日本』44―10／Ｈ６―10）
⑦吉田松陰とその家族（郷学研究所『季刊郷学』81／Ｈ24―10）
⑦欧米人も感動した吉田松陰の至誠（真心）（『藝林』64―２／Ｈ27―10）
⑦橋本景岳より母堂あて自筆書翰（『藝林』58―２／Ｈ21―10）
⑦橋本景岳（左内）とその家族（『日本』64―５／Ｈ26―５）
⑦『所郁太郎』の再発見（青山松任『所郁太郎』復刻版付録／新人物往来社／Ｈ３―５）
⑦「美濃浪人」所郁太郎の史料探訪（『岐阜県郷土資料研究協議会々報』１１５／Ｈ23―３）
⑦良子女王と杉浦重剛（『日本及日本人』１６１５／Ｈ６―７）
⑦久邇宮良子女王と杉浦重剛（『歴史と旅』９月特集号／Ｈ12―９）
⑦大垣出身の岡田朝太郎博士に学ぶ（かんせいPLAZA／Ｈ28―３）
⑦横浜に貢献した岐阜の原三渓と野村洋三（かんせいPLAZA／Ｈ27―12）
⑦牧野英一博士に学ぶ“家族尊重”の法思想（『ぎふの教育』176／Ｈ28―３）
⑦飛騨高山の現代国民講座と和歌山の「大切なことを学ぶ会」（かんせいPLAZA／Ｈ27―11）
⑦徳富蘇峰　終戦半年後の皇室論（『日本』63―11／Ｈ25―11）
⑦「寒林子」先生から「頑蘇」翁への「感想」文（『日本』68―６／Ｈ30―６）

〈縁者論〉

⑦坂本太郎先生（『歴史研究』263／S58―１）
⑦確実・明快な坂本史学（解説）（坂本太郎博士『日本歴史の特性』講談社学術文庫／Ｓ61―12）
⑦終生の恪勤―瀧川政次郎博士を偲ぶ（『古代文化』44―11／Ｈ４―11）
⑦誠実な藤木邦彦先生への感謝『史聚』41／Ｈ20―３）
⑦村尾次郎博士を偲ぶ（『日本』57―２／Ｈ18―２）
⑦田中卓先生に学んで六十年（『田中卓先生を偲ぶ』文集／H31―２／『日本』69―２／Ｈ31―２）
⑦小川常人氏への弔辞（『日本』59―３／Ｈ21―３）
⑦偉大な教育者・研究者／稲川先生と教科書問題（汗青会『稲川誠一先生の想ひ出』／Ｓ61―11）
⑦稲川先生の弔辞（汗青会編『稲川誠一先生の想ひ出』／S61―11）
⑦「忠誠院釈行道」先生の最期（汗青会編『稲川誠一先生の想ひ出』／S61―11）
⑦時野谷滋博士の事績と学徳（『日本』56―７／Ｈ18―７）

⑦葦津珍彦生誕百年／靖国神社を護る論戦の展開（『神社新報』／H21—12）
⑦中西重忠さんの文化勲章を間近に拝見して（かんせいPLAZA／H28—１）
⑦"父"とのめぐりあい（加藤良年氏著『ムンダの星』序文／S60—８）
⑦『えにしのふしぎ』所久雄五〇年祭記念（私家版／H８—７）
⑦母ありてこそ（『ぎふの教育』２／S43—１）
⑦『所かなを一人百首』米寿記念（私家版／H16—８）
⑦『母を偲ぶ』所かなを五十日祭記念（私家版／H19—８）
⑦母から学んだ「おかげさま」（『楠の生いたち』52／H20—３）

〈郷土史論〉

⑦元正女帝と養老改元の画期的意義（講演記録４回分載）（かんせいPLAZA／H25—４）
⑦美濃ゆかりの若水（『神道大系月報』34／S58—７）
⑦濃飛ゆかりの円空さん〜神仏一如の彫刻と和歌〜（『ぎふの教育』１３６／H16—３）
⑦明治維新に学ぶ（『維新の道・岐阜』30／H23—７）
⑦濃尾大震災の復興と庶民教育の底力（『ぎふの教育』１５８／H23—６）
⑦『マツリ文化を考える―ふるさと揖斐川の再発見』（揖斐川町教育委員会講演記録／H18—11）
⑦"河童遊和国・カッパ祭り"の夢（『揖斐川の祭りと踊り』揖斐川町教育委員会／H19—２）
⑦揖斐川「献上蛍」ゆかりの人々（『郷土読本　揖斐川町ゆかりの人々』町教育委員会／H21—２）
⑦岐阜谷汲育樹祭奉祝・皇太子殿下行啓奉迎に向けて（かんせいPLAZA／H27—９）
⑦『野中の歩みと社寺の営み』（私家版／H24—３）

⑧『講演・座談・討論記録』

〈歴史論〉

⑧日本歴史の核心（『日本』21―9／S46―9）
⑧歴史の継承（『日本』38―10・11／S63―10・11）
⑧『日本の建国と発展の原動力』（モラロジー研究所・生涯学習ブックレット／H16―11）
⑧「日本」の源流を探る―「ヤマト文化」から「日本文明」まで（『比較文明研究』22／H29―11）
⑧政治家としての菅原道真（『九州歴史大学講座』8月号／H5―8）
⑧梅と菊と菅公（全国梅風会編『余香集』／H3―12）
⑧『賀茂臨時祭の来歴』（全国賀茂社連合講演録7／H9―7）
⑧国歌“君が代”の来歴と意味（『済寧』迎春号／H7―1）
⑧『ハタ（幡・旗）の来歴』（真清田神社東車維持財団講演叢書2／H11―9）
⑧明治維新の理念（『日本』19―2／S44―3）
⑧明治維新観の再検討（『日本』18―7／S43―7）
⑧現代社会における伝統意識のもつ意味（京都産大世界問題研究所報『世界の窓』6／H3―3）
⑧『日本の自然と歴史の特性』（熱田神宮文化講座講録9『日本人の自然観』／H8―3）
⑧ロング・インタビュー「平成改元」（読売新聞政治部編『平成改元』行研／H元―6）
⑧相互討論　平泉澄博士をめぐる諸問題（『藝林』64―1／H27―4）

〈皇室論〉

⑧倭姫命と日本武尊の物語（熱田神宮「日本武尊を仰ぐ会」講演会記録／H8―8）
⑧日本の伝統と革新（『致遠』83／H元―9）
⑧対談　平成の御大礼（『むとうむへん』48／H2―1）
⑧皇太子御成婚の儀（皇宮護衛署本部『済寧』ご成婚記念特集号／H5―8）
⑧明治・大正・昭和に学ぶ（『昭和』6・7／H14―6・7）
⑧皇位継承への不安（高橋紘氏との対談）（文藝春秋『諸君!』12月号／H10―12）
⑧『皇室典範と女帝問題の再検討』（國民會館叢書41／H14―3）
⑧『今上陛下のご理想』（全国清々会／H17―2）
⑧「象徴天皇の“まつりごと”」（歴史研究会第25回全国大会『首都圏大会資料集』／H21―10）
⑧皇室の生活文化に見る伝統の多様性（『比較生活文化研究』16／H22―3）
⑧皇室に学ぶ日本人の底力（『神戸木鶏』H24―1）
⑧皇室に学ぶ徳育（「大切なことを学ぶ会」創立五周年記念講演記録／H24―11）
⑧『皇室に学ぶ日本人の底力』（皇学館高校創立50周年記念講演冊子／H28―2）
⑧『日本国憲法「天皇」の再検討』（國民會館講演叢書92／H25―11）
⑧『象徴天皇と高齢社会の在り方を考える』（全国清々会総会特別講演冊子／H29―10）
⑧『皇位継承の歴史と廣池千九郎』共著（モラロジー研究所ブックレット／H30―4）
⑧シンポジウム　日本の皇室を考える（『弘道』1117／H30―12）
⑧御代替わりと日本人の在り方（一燈園『光』1179／R元―7）
⑧「令和」の理想と課題―誰もが出来る取り組みたいこと（実践経営者道場『大和』／R2―3）
⑧皇統の永続のために・対論（『皇室典範を改正しなければ宮家がなくなる』藤原書店／H24―9）

⑧女性宮家と皇位継承（大石眞氏との対論）（『京都新聞』／H24―6―6）

⑧女性皇族と雛まつり（『史聚』38／H18―3）

⑧シンポジウム「賀茂斎王―千二百年の歴史と文学」相互討論（榎村寛之・後藤祥子・小林一彦・所功）（『京都産業大学日本文化研究所紀要』16／H23―3）

⑧眞子さま降嫁で皇族が消滅する日（保阪正康・岩井克己氏と鼎談）（『文藝春秋』／H29―7）

⑧象徴天皇のお務めと高齢社会の在り方（東京岐阜県人会『ｇｉｆｕｎｅｔ』68／H30―10）

⑧令和の即位礼と大新嘗祭―高御座と米粟に見る日本の伝統文化（『モラロジー研究』84／R２―４）

〈文化論〉

⑧鼎談　平和を支える柱（『論争ジャーナル』創刊号／S42―1）

⑧日本人の”底力”を見直す（『Papoter』89／H24―10）

⑧国風文化の成立と展開（要旨）（京都産業大学世界問題研究所報『世界の窓』7／H４―５）

⑧「シンポジウム日本文化の源流を求めて」基調講演（『弘道』１０５７／H20―12）

⑧『“家族同姓”の再評価』（全国神社総代会講演記録／H９―７）

⑧『”たいせつなこと”のすすめ』（四柱神社／H17―6）

⑧本真に”たいせつなこと”を学ぶ（裏千家談交会「学校茶道指導者研修会講義録」／H17―11）

⑧『日本的な家庭と学校の役割』（『モラロジー女性クラブ全国大会・記録集』／H20―3）

⑧新春対談（装道礼法きもの学院　山中典士との対談）（『装道新聞』591／H29―1）

⑧戦没者の慰霊と収骨の継承（『祖國と青年』３１５／H16―12）

⑧対談　「日の丸・君が代」の精髄（『諸君！』／H11―9）

⑧『「国民の祝日」の来歴検証と国際比較』（国民会館叢書76／H20―3）

⑧座談『千年のいのり―神宮・神社の今日的課題―』（伊勢神宮崇敬会叢書6／H12―3）

⑧『お伊勢さんの式年遷宮と廣池千九郎』（モラロジー研究所ブックレット／H25―9）

⑧『「おかげまゐり・せぎょう」と日本人のソフトパワー』（大阪盛和塾『利他実践』31／H25―12）

⑧『さざれ石と日本文化』（さざれ石愛護の日50周年記念講演冊子／H29―12）

⑧京都産業大学の創立と“学歌”（『大学の歴史と京都産業大学』講義記録／H18―11）

⑧戦死者の慰霊顕彰と遺志継承（靖國神社崇敬会「あさなぎ」関西支部講演記録集／H26―2）

⑨『解題・書評・事典抄録』

〈解題・解説〉（内容別）

⑨伝記と人物論の図書案内（歴史百科『日本の歴史書三五〇〇』新人物往来社／S55—6）
⑨『國書逸文』の関する覚書（『國書逸文研究』2／S54—2）
⑨国書の逸文発掘（『学士会会報』750／S56—1）
⑨『新訂増補　國書逸文』代表序文（国書刊行会／H7—2）
⑨和田英松著『皇室御撰之研究』・帝国学士院編『宸翰英華』（『藝林』38—1／H元—3）
⑨『古事類苑』と広池千九郎博士（『モラロジー研究所報』9／H19—9）
⑨皇室研究にも活用したい『古事類苑』（『モラロジー研究所所報』8／H29—8）
⑨『歴代御記』と廣池千九郎博士（『モラロジー研究所所報』）8／H20—8）
⑨解題『日本国家の成立と諸氏族』（『田中卓著作集』2国書刊行会／S61—10）
⑨解題『神社と祭祀』（『田中卓著作集』11—Ⅰ、国書刊行会／H6—8）
⑨『古事記』がよくわかる事典』監序（PHP研究所／H24—11）
⑨天皇こそ日本のソフトパワー（『まんがと図解でわかる天皇のすべて』監序、別冊宝島／H24—11）
⑨『近世日本国民史』の人と心（『楠の生いたち』7／S37—10）
⑨白鳥庫吉『國史』—スケールの大きな書き下ろし通史（『週刊読書人』／S58—10?）
⑨白鳥庫吉著『(昭和天皇の教科書) 国史』について語る（『SAPIO』7／H27—6）
⑨解説　三浦周行博士の『即位礼と大嘗祭』（復刻版『即位礼と大嘗祭』神社新報社／S62—11）
⑨解説　出雲路通次郎の『大礼と朝儀』（復刻版『大礼と朝儀』臨川書店／S63—4）
⑨小原・鈴鹿両家当主の見識と寄託資料の価値（『皇學館大学神道研究所紀要』25／H21—3）
⑨永積寅彦述『昭和天皇と私』あとがき（学習研究社／H4—2）
⑨高橋紘氏の遺稿『人間　昭和天皇』の背景（『比較文明研究』17／H24—6）
⑨服部敏良著『日本医学史研究余話』序にかえて（科学書院／S57—10）
⑨「田中卓博士著作集完成祝賀会」謝辞（『伊勢青々』2／H7—2）
⑨稲川誠一先生遺稿集『日本の歴史と教育』　歴史篇・教育篇編集後記（汗青会／S61—3）
⑨細谷勘資氏遺稿集『中世宮廷儀式書式変更の研究』本書の要点と特色（勉誠出版／H19—2）
⑨大島幸雄氏著『平安後期散逸日記の研究』大島幸雄氏の力作完成を寿ぐ（岩田書院／H29—1）
⑨歴史研究の心がけ（歴史研究会編『在野史論』序文、新人物往来社／H元—8）
⑨『歴史に学ぼう、先人に学ぼう』6・選考の総評と所感、モラロジー研究所／H25—11）

〈書評・紹介〉（年月順）

⑨紹介　丸田淳著『学問と人生』（『日本』15—4／S40—4）
⑨紹介　小林健三・西内雅著『日本歴史の精神』（『日本』16—8／S41—8）
⑨小川三雄『天皇の踏絵』（『日本』19—11／S44—11）
⑨逵日出典著『室生寺及び長谷寺の研究』（『古代文化』23—7／S46—7）
⑨竹内理三博士還暦記念会編『律令国家と貴族社会』（『法制史研究』21／S47—3）
⑨林紀昭「大化薄葬令の再検討」「飛鳥浄御原律令に関する諸問題」（『法制史研究』23／S48—3）
⑨武藤貞一著『わが日本わが天皇制』（『日本』24—3／S49—3）
⑨市村真一編『東南アジアを考える』（『日本』24—4／S49—4）

⑨野村忠夫著『官人制論』（『史学雑誌』85—8／S51—8）
⑨皇學館大學神道研究所編『大嘗祭の研究』（『神道学』99／S53—11）
⑨グレゴリー・クラーク述『ユニークな日本人』（『日本』30—7／S55—7）
⑨白山芳太郎著『職原鈔の基礎的研究』（『日本歴史』394／S56—3）
⑨真弓常忠著『日本古代祭祀と鉄』（『日本歴史』423／S58—8）
⑨大島幸雄・木本好信・菅原邦彦編『朝野群載総索引』（『史聚』17／S58—9）
⑨紹介　田中卓博士著『皇國史観の対決』（『神社新報』／S59—2—13）
⑨紹介　『靖國神社写真集』（『神社新報』S61—5—19）
⑨紹介　高橋史朗／ハリー・レイ共著『占領下の教育改革と検閲』（『神社新報』S62—3—30）
⑨二十二社研究会編『平安時代の神社と祭祀』（『國學院雑誌』88—5／S62—5）
⑨高橋史朗著『戦後教育の実像』『占領下の教育と検閲』（『日本』37—6／S62—6）
⑨紹介　皇室法研究会編『現行皇室法の批判的研究』（『神社新報』S63—2—1）
⑨田中卓著『伊勢神宮と式年遷宮』（『日本』38—2／S63—2）
⑨紹介　田中卓著『歴史と伝統』（『神社新報』S63—9—5）
⑨大倉精神文化研究所編『総合研究　飛鳥文化』（『藝林』38—3／H元—9）
⑨紹介　心に残った一冊　小泉信三著『国を思ふ心』（『神社新報』H2—5—21）
⑨書評　神社新報特別取材班編『国王誕生』（『神社新報』／H2—11—5）
⑨山中裕著『平安時代の古記録と貴族文化』（『古代文化』43—2／H3—2）
⑨岩井忠熊・岡田精司編『天皇代替り儀式の歴史的展開』（『比較法史研究』1／H4—3）
⑨紹介　白山神社（越前平泉寺）編『白山神社史』（『神社新報』H4—8—31）
⑨大倉精神文化研究所編『新版　日本思想史文献解題』（『藝林』42—2／H5—5）
⑨紹介　加瀬英明編『宮中晩餐会—お言葉と答辞—』（『神社新報』／H5—9—13）
⑨『田中卓著作集』全十一巻の紹介（『日本』45—1／H7—1）
⑨式内社研究会編『式内社調査報告（別巻）総索引』（『藝林』44—2／H7—5）
⑨田中卓著『住吉大社・中巻』（『神道史研究』44—2／H8—4）
⑨紹介　田中卓博士著『教養日本史』（『神社新報』／H8—11—4）
⑨田中卓博士著『教養日本史』（『神道史研究』45—1／H9—1）
⑨中山広司遺著『近世日本学の研究』（『藝林』46—1／H9—2）
⑨福井俊彦「令義解の撰定と格式の施行」（『法制史研究』46／H9—3）
⑨平泉澄博士著“THE STORY OF JAPAN”（『藝林』46—3／H9—8）
⑨市村真一編『先哲を仰ぐ・三訂版』（『藝林』47—4／H9—10）
⑨加茂正典著『日本古代即位儀礼史の研究』（『藝林』48—4／H10—11）
⑨紹介　広瀬明正著『一跌再跌この道をゆく』（『神社新報』H11—4—19）
⑨飯田瑞穂著作集5『日本古代史叢説』（『藝林』50—3・4／H13—10）
⑨紹介　問題点だらけのビックス著『昭和天皇』（『神社新報』H14—12—28）
⑨紹介　平泉澄博士著『THE HISTORY OF JAPAN』ⅠⅡⅢ（『神社新報』H15—3—24）
⑨『先哲を仰ぐ』と『平泉博士史論抄』（田中卓編『平泉澄博士全著作紹介』勉誠出版／H16—2）
⑨今あらためて『愛国心の目覚め』を読む（『楠の生いたち』48／H16—3）
⑨平泉澄博士著『中世に於ける精神生活』〈新訂版〉　編輯解説（錦正社／H18—2）
⑨田中卓博士著『祖國再建』に学ぶ（『日本の教育』550／H19—2）

⑨書評　宮内省編『道』新装版（『神社新報』／H21―11―２）

⑨青山隆生他著『靖国の源流』を読む（『神社新報』／H22―12―27）

⑨植村和秀著『日本のソフトパワー』を読む（かんせいPLAZA／H25―５）

〈事典・辞典〉（項目名のみ抄出）

ａ『國史大辞典』　／　ｂ『平安時代史事典』　／　ｃ『皇室事典　令和版』　／　ｄその他